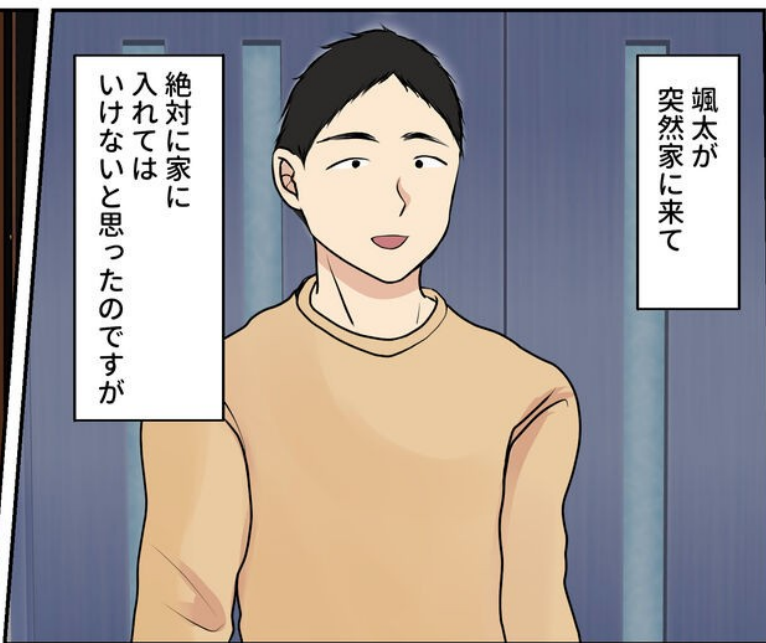
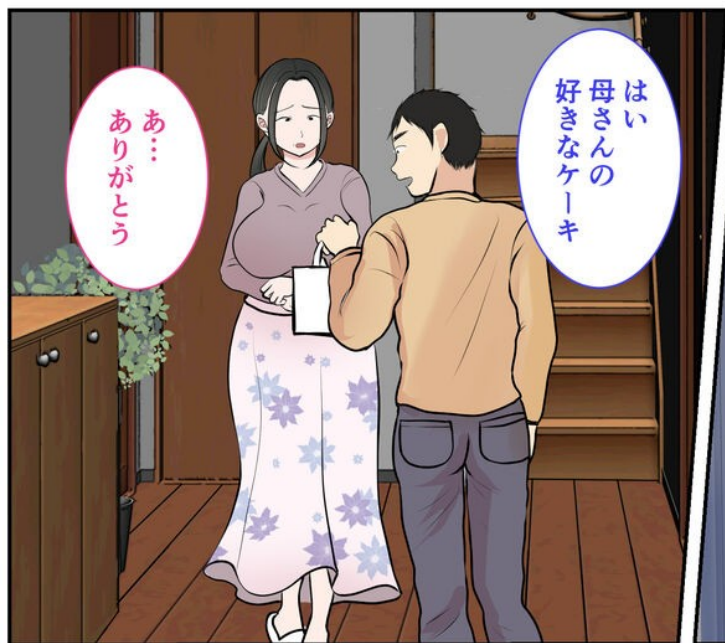


実母代理出産

～奈々恵編2～





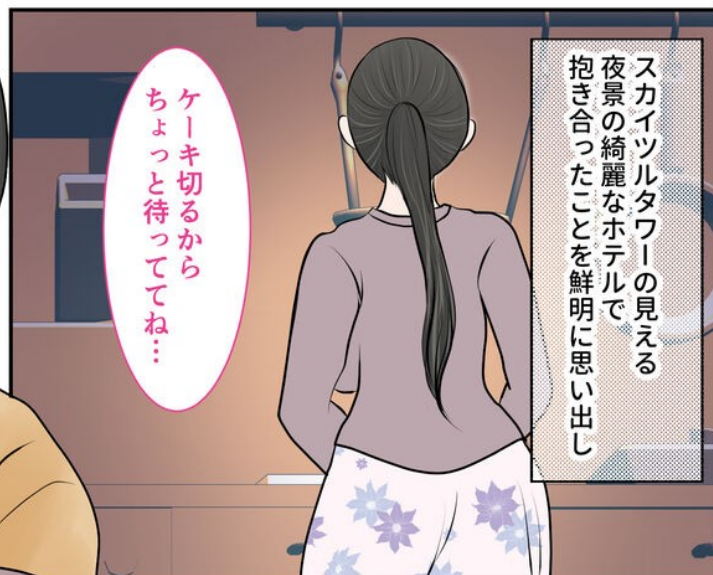


母さん…

あッ…

も

みっ



スカイツルタワーの見える
夜景の綺麗なホテルで
抱き合ったことを鮮明に思い出し

ケーキ切るから
ちょっと待っててね…



すぐに
出ていってもらおうと
思ったのですが…

あまり
長居させるのは
危険ね…

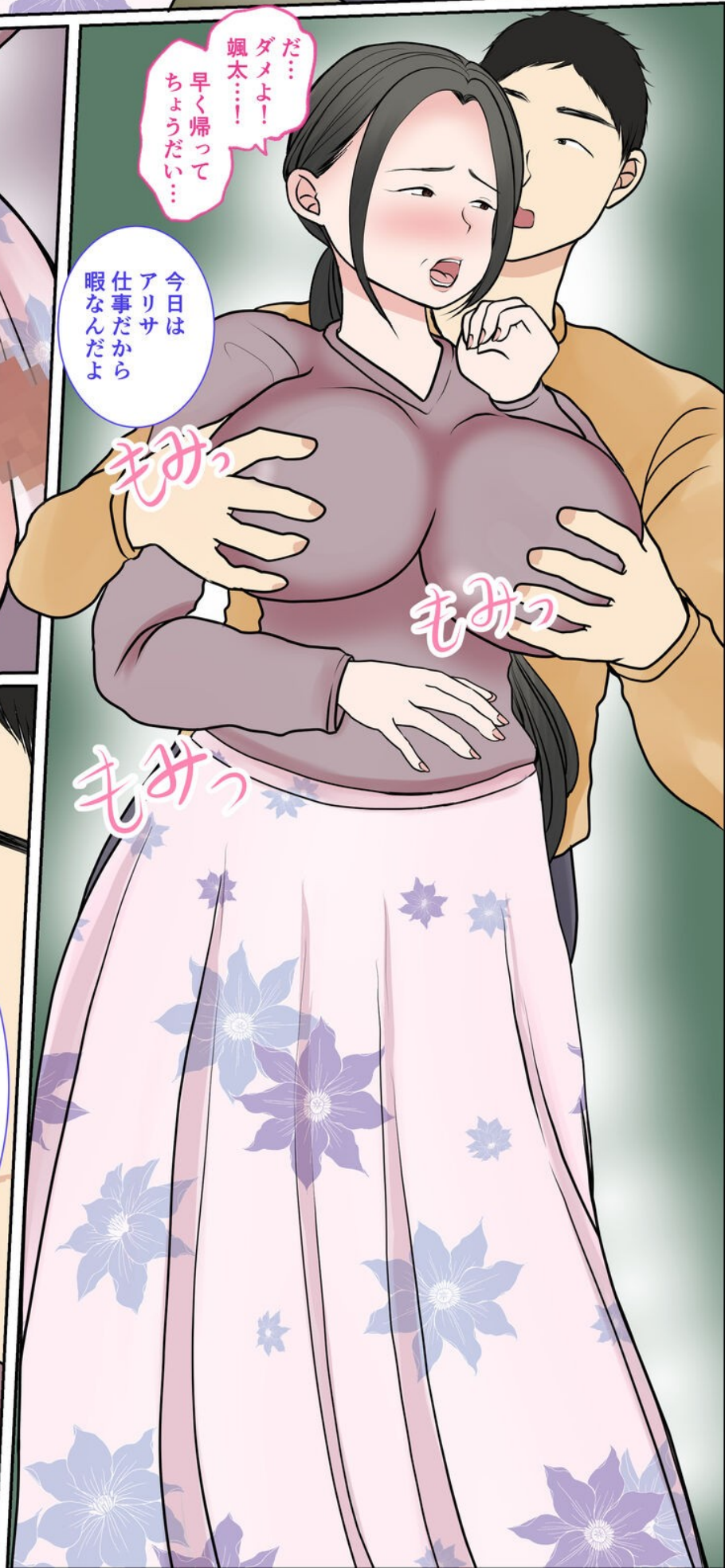


警戒しつつも
あの子なりに気を使って
くれたのかなと思い

息子の優しさを信じた
私は、
油断してしまったのです…

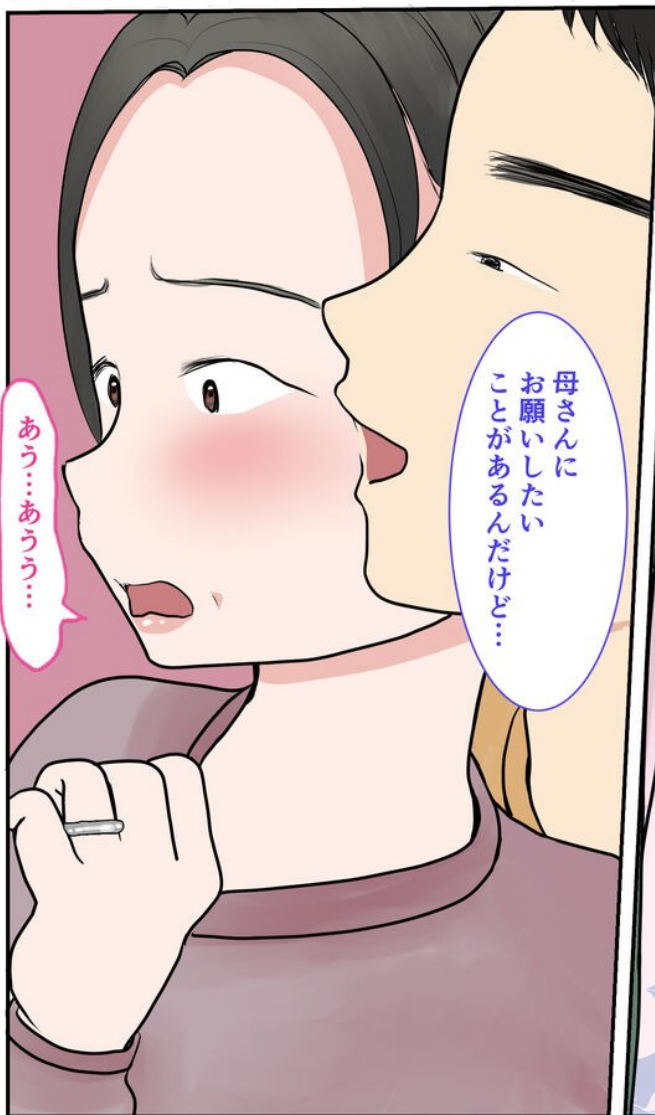


いきなり
胸を揉まれて…
硬いペニスを
押し当てられて…



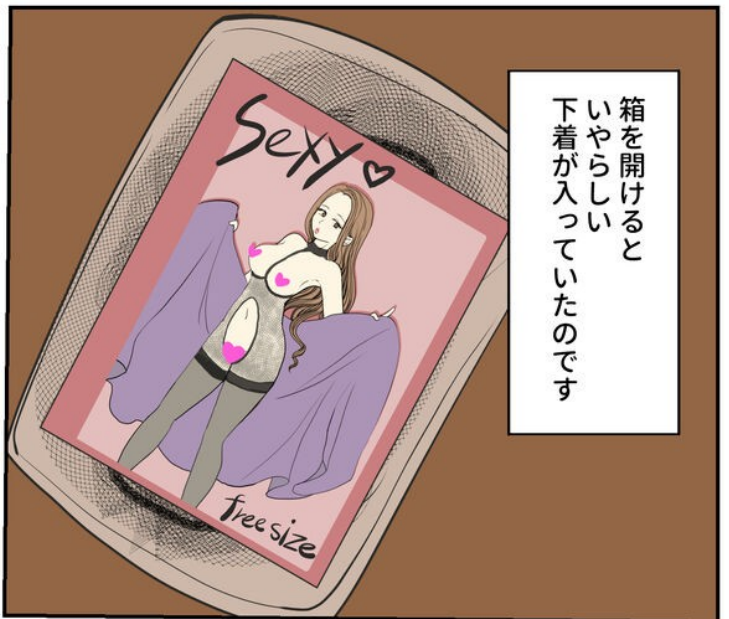
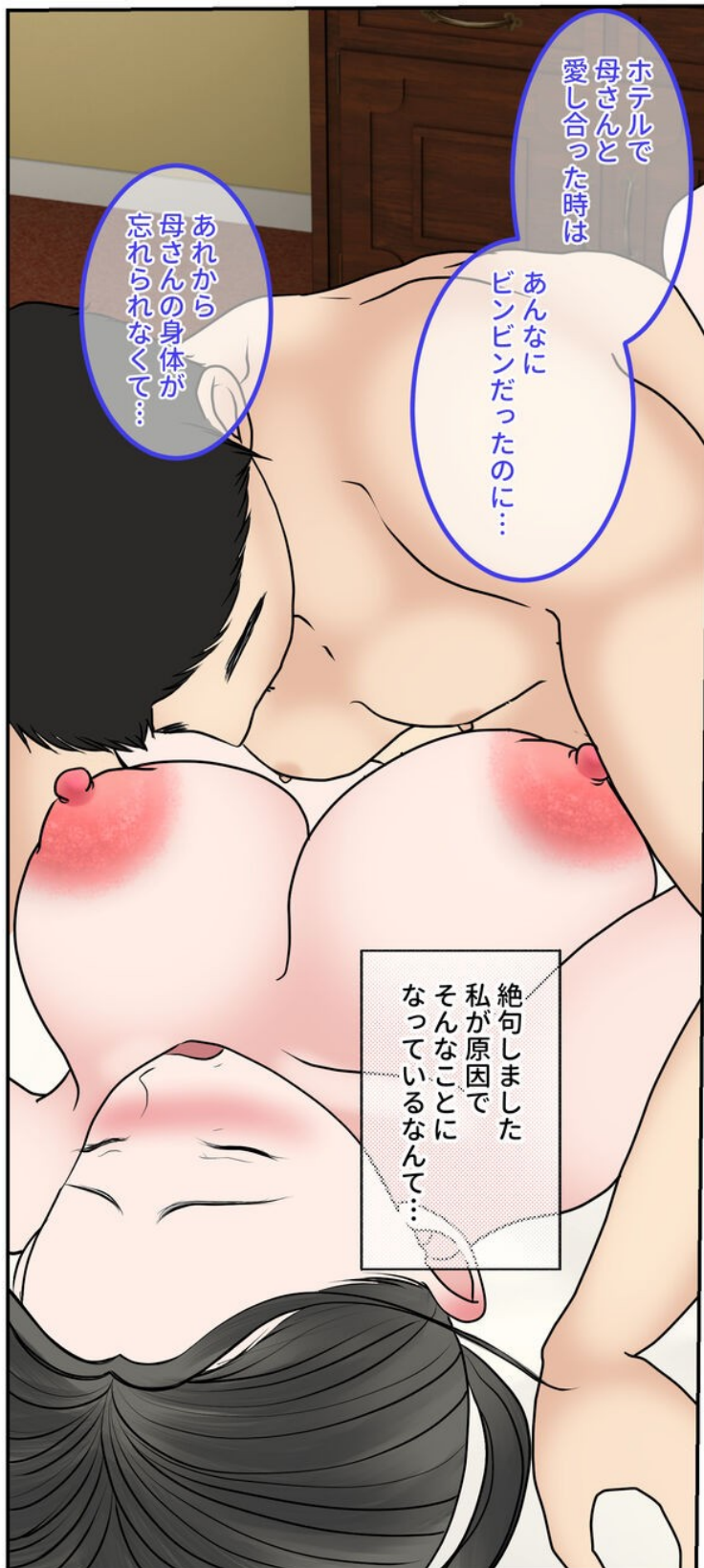
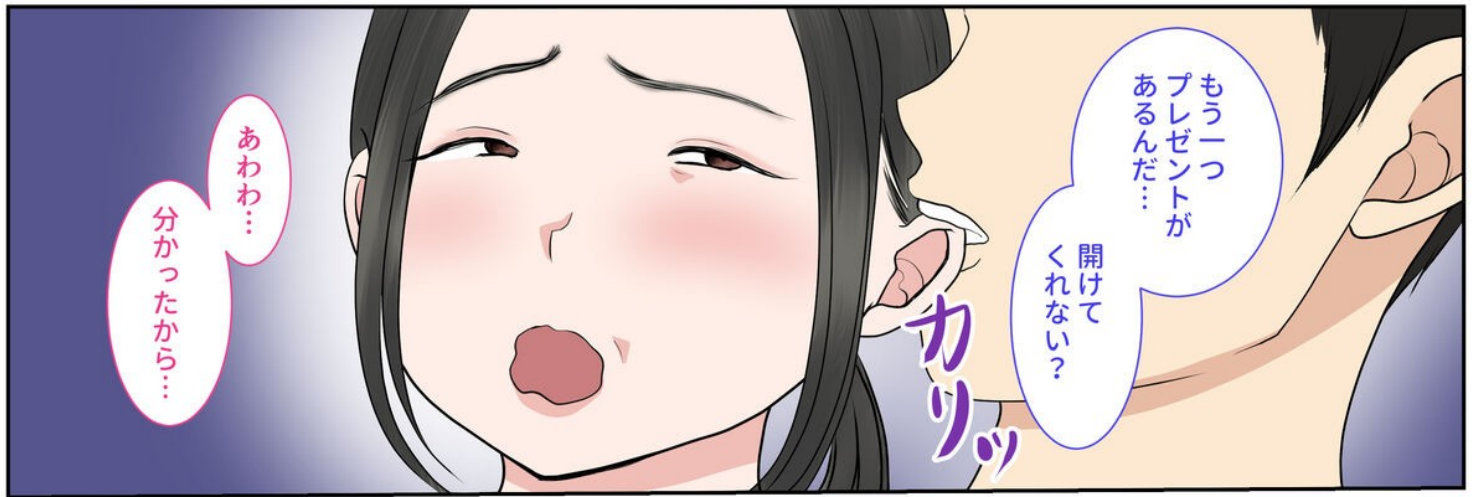
だ…
ダメよ！
颯太…！
早く帰って
ちょうだい…

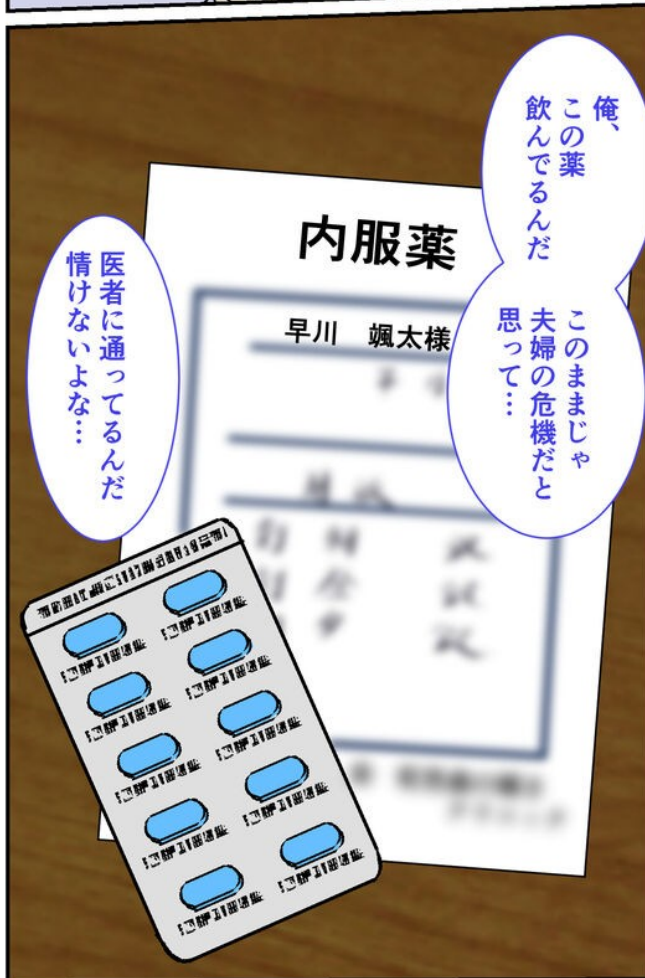
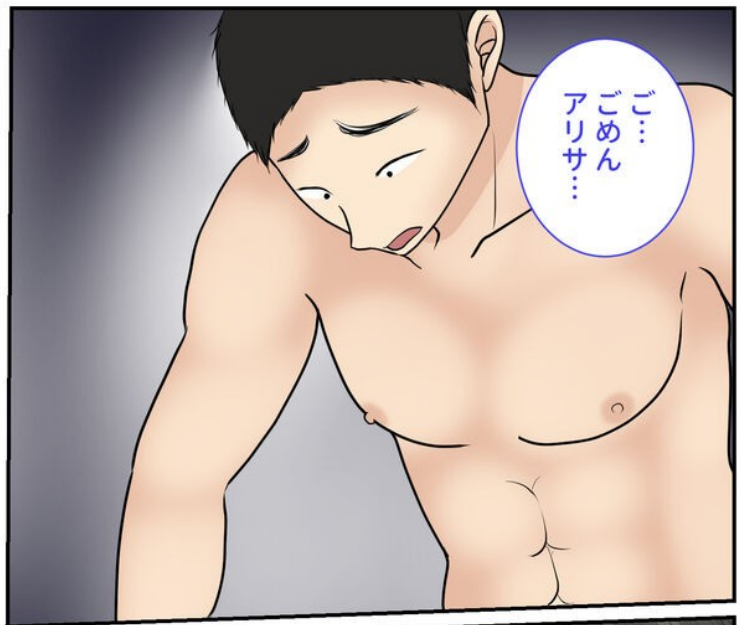
今日は
アリサ
仕事だから
暇なんだよ



母さんに
お願いしたい
ことがあるんだけど…

あう…あう…

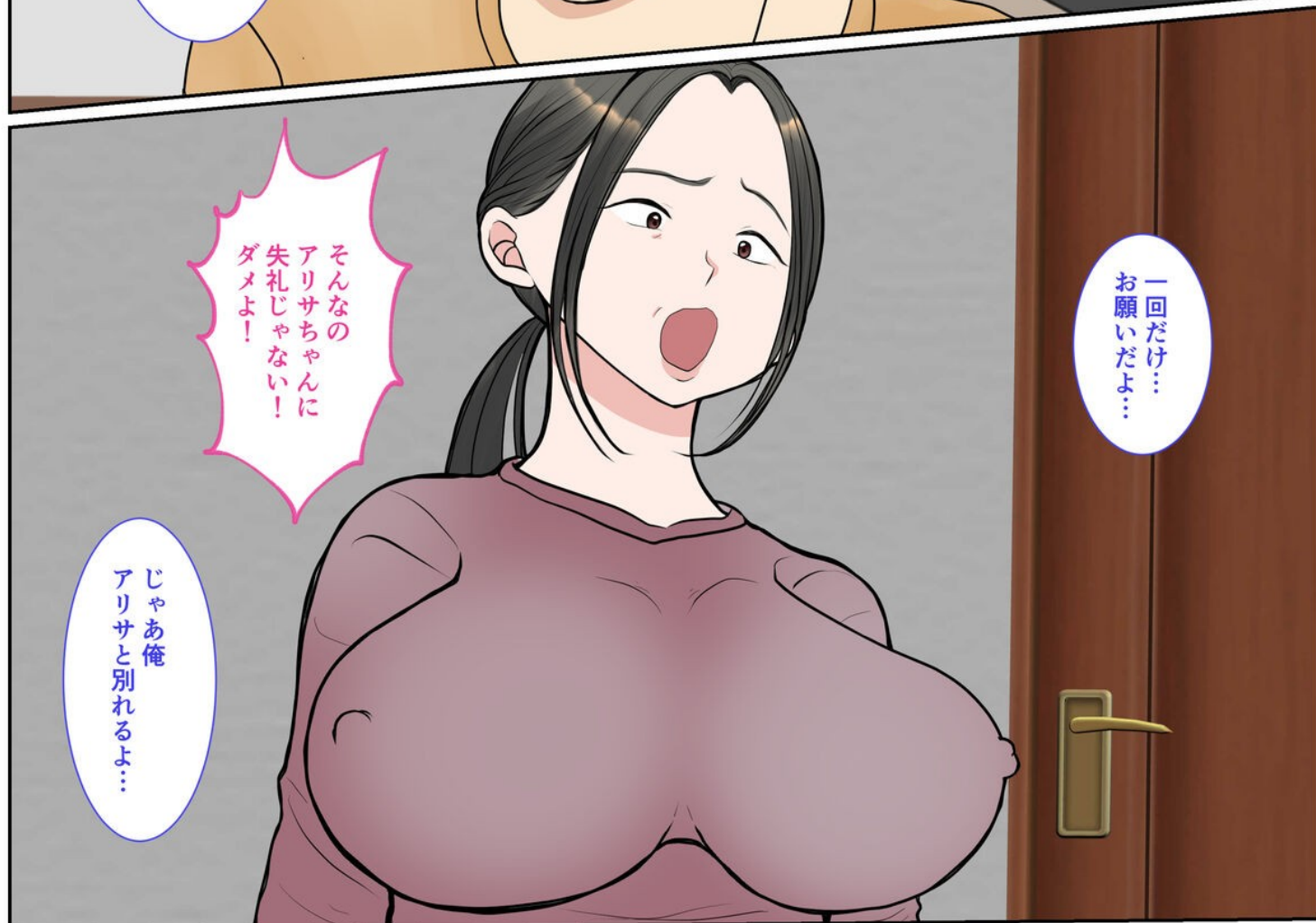






俺、
この薬
飲まなくても

母さんの
下着姿思い出したら
アリサとセックス
できそうな気がするんだ



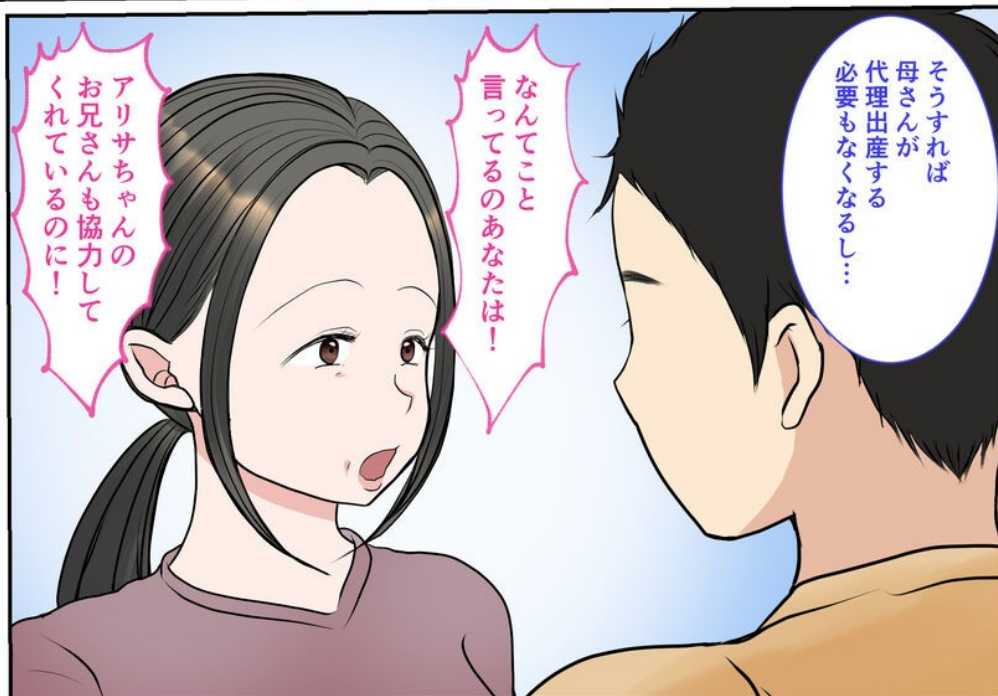
一回だけ…
お願いだよ…

そんなの
アリサちゃんに
失礼じゃない！
ダメよ！

じゃあ俺
アリサと別れるよ…



ちょっと
待ってて…



そうすれば
母さんが
代理出産する
必要もなくなるし…

なんてこと
言ってるのあなたは！

アリサちゃんのお兄さんも協力してくれているのに！

私は言われるがまま、
着替えてしまったのです
「お互い、絶対に触らない」という
約束を交わして…

着替えたわよ…

見るだけだからね…

カアアアアアッ

ぱりっ

もう終わりで
いい…?

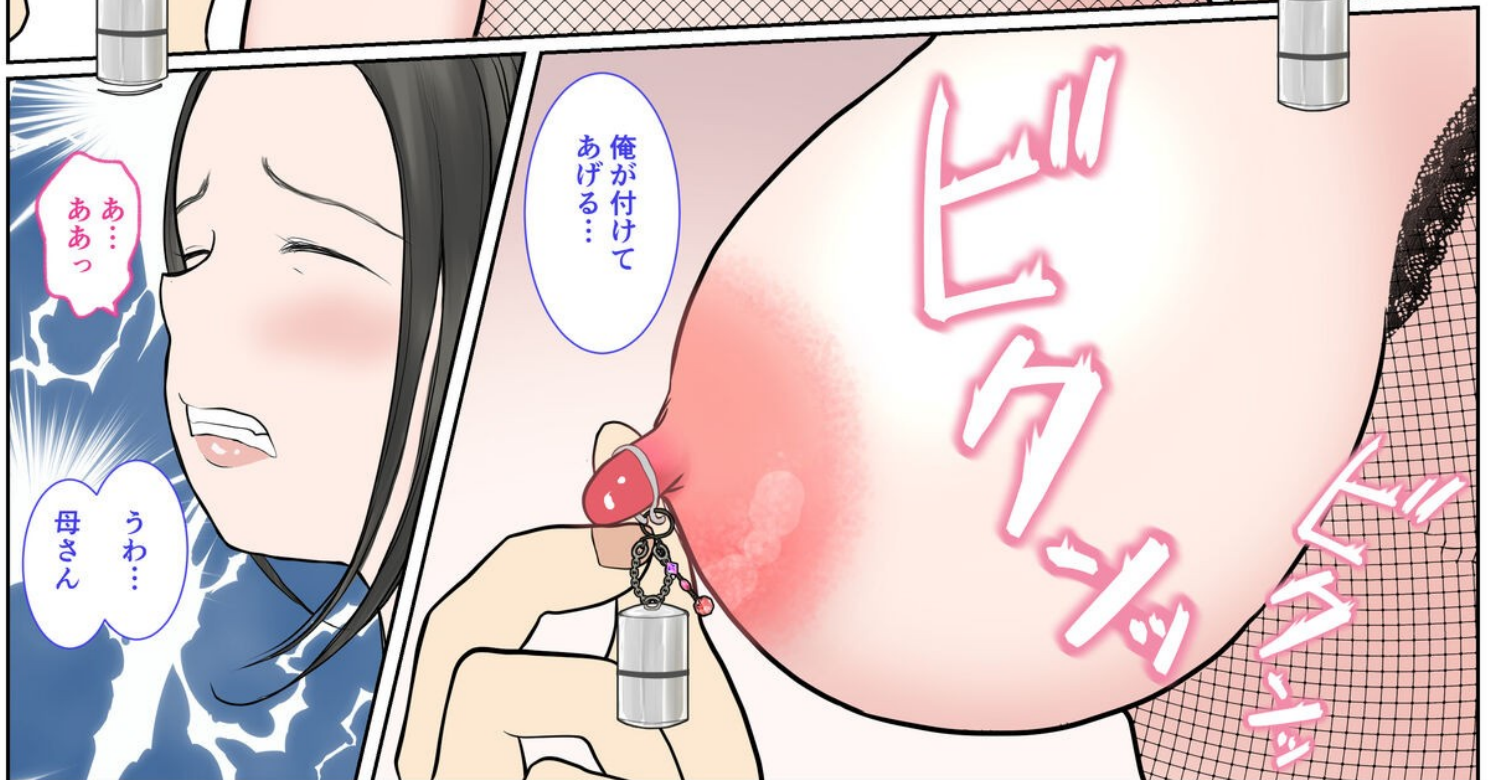
母さん
エロすぎる…

もじ

これも
プレゼント
なんだけど…

チャラッ

もじ





AUTO



ピアスの重みで
私の乳首は
無様に伸び切り

想像以上に良い…
エロすぎるよ…

今の母さん
スケベすぎて
ヤバイよ…

ちよっ…
撮りすぎよ…
もういいでしょう…

その姿を写真に
撮られてしまって
いたのです

不思議なことに
感じてしまっていて…

パンッ

パンッ

パンッ

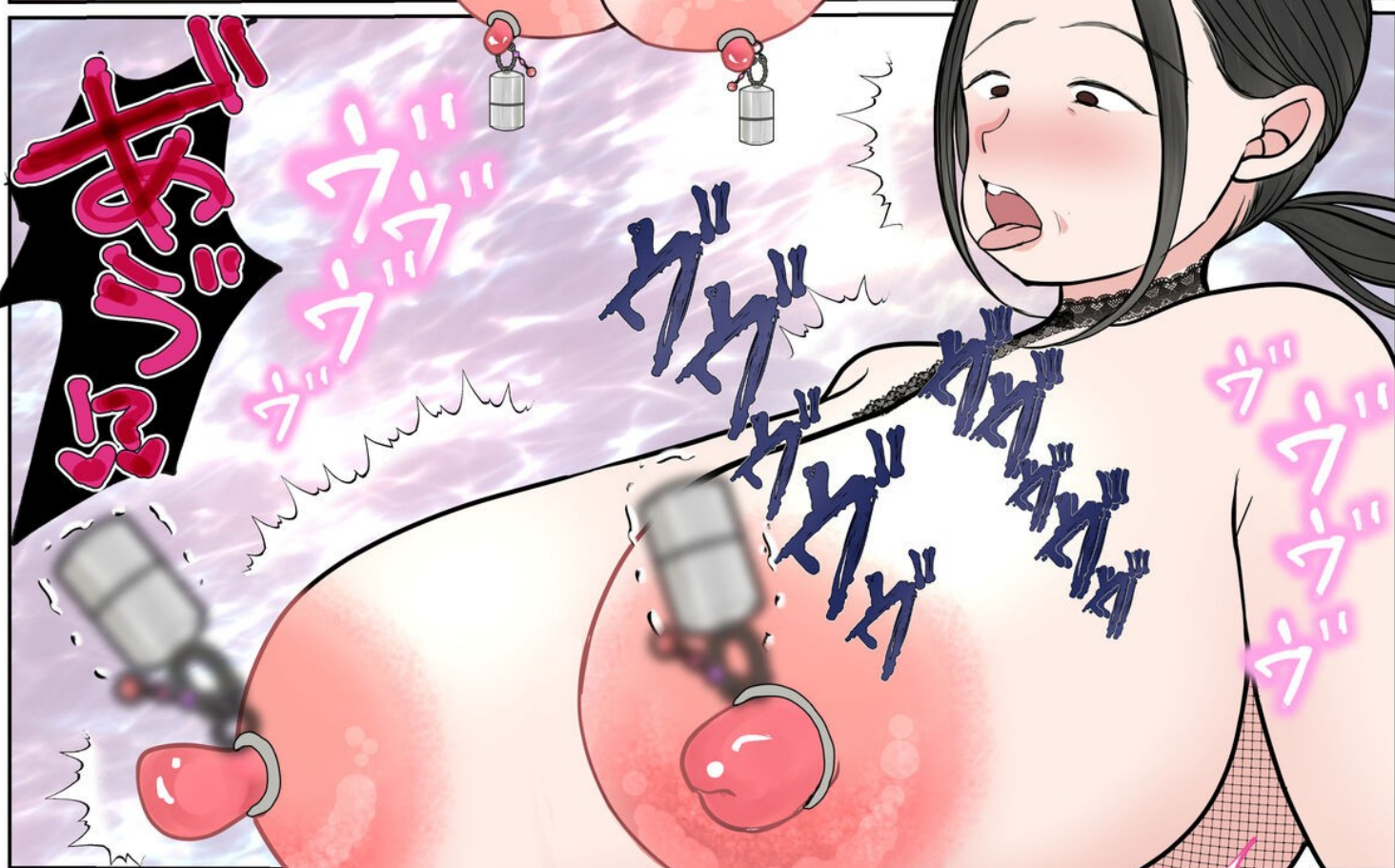




このピアスには
とある
仕掛けがしてあるんだ

母さんも
気にいると思うよ

押してみるね…

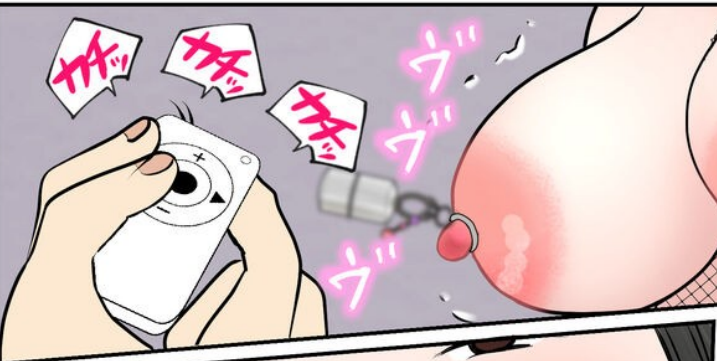


ひゃあうっ
何…!? !?

ピアス型
パイプだよ

どんどん
振動が強くなって…

弱まったり
強まったりを
繰り返して…



1番
強い振動に
なった時



私は
果ててしまったのです



とろお...

ほろッ♡♡

ヴッ
ヴッ
ヴッ

ふふっ
いつちやった?
母さん
あそこすっごいよ...

ほろッ♡♡

ヴッ
ヴッ

ほろッ♡♡

ほろッ♡♡♡♡

ヴッ

ほろッ♡♡

ほろッ♡♡

ほろッ♡♡♡♡

ほろッ♡♡

あ...

母さん
ムービー撮るから

オナって
みてよ

あつ潮吹いてる...
またイッちやった?

恥ずかしさは
ありましたが

あそこが
疼いてしまい
どうしようもなく



ひくっ♡
Z
ちゅ

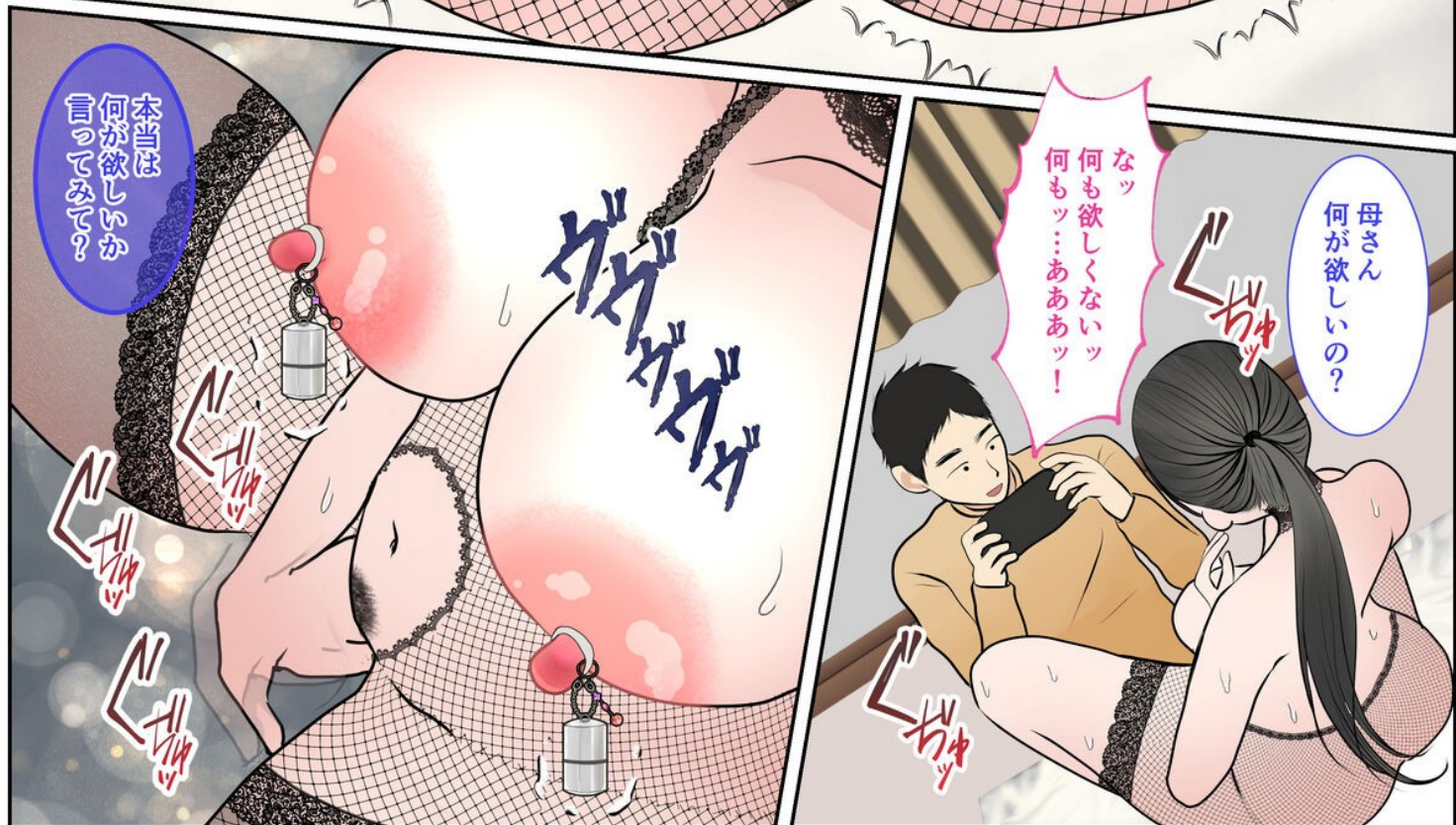
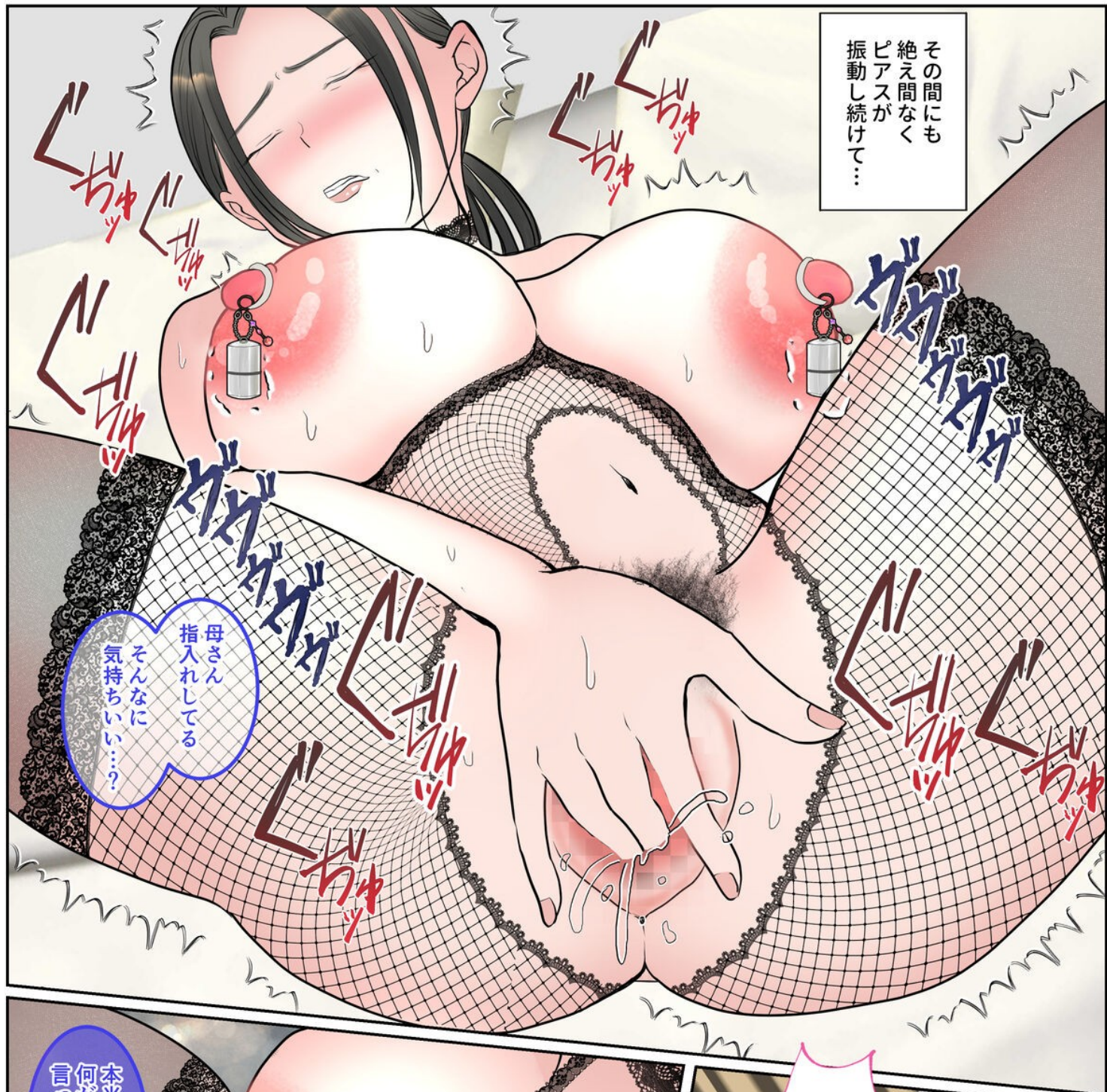
あはあ

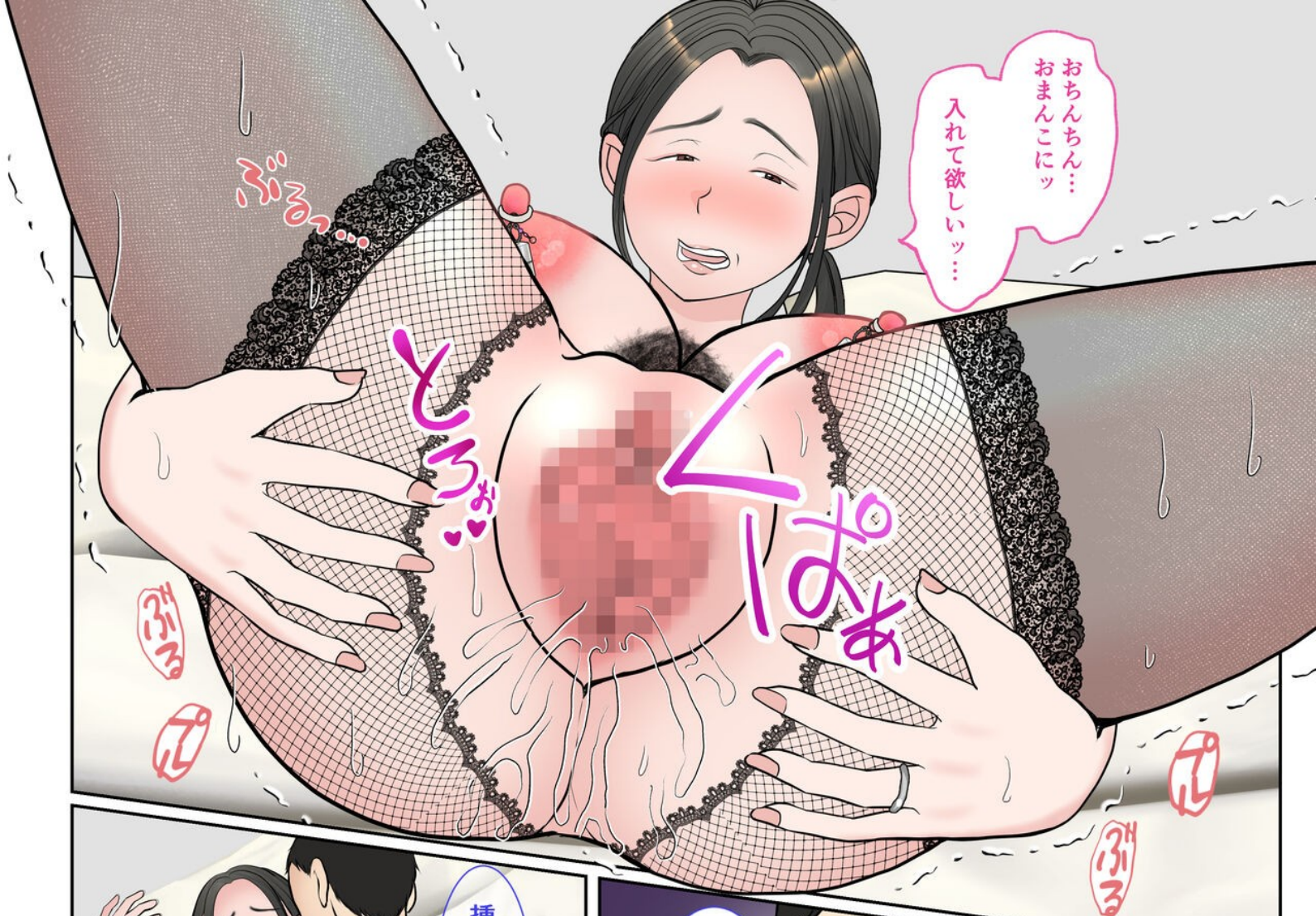
あろうことか
私は

颯太の、
実の息子の目の前で
自分の指でクリトリスを
いじってしまったのです

ああん♡♡♡

その間にも
絶え間なく
ピアスが
振動し続けて…







母さんが
親父とやるとき
いつもいやらしい
格好してるのも知ってる……

ベッドの下に隠れて
こっそり見では
嫉妬してたんだ

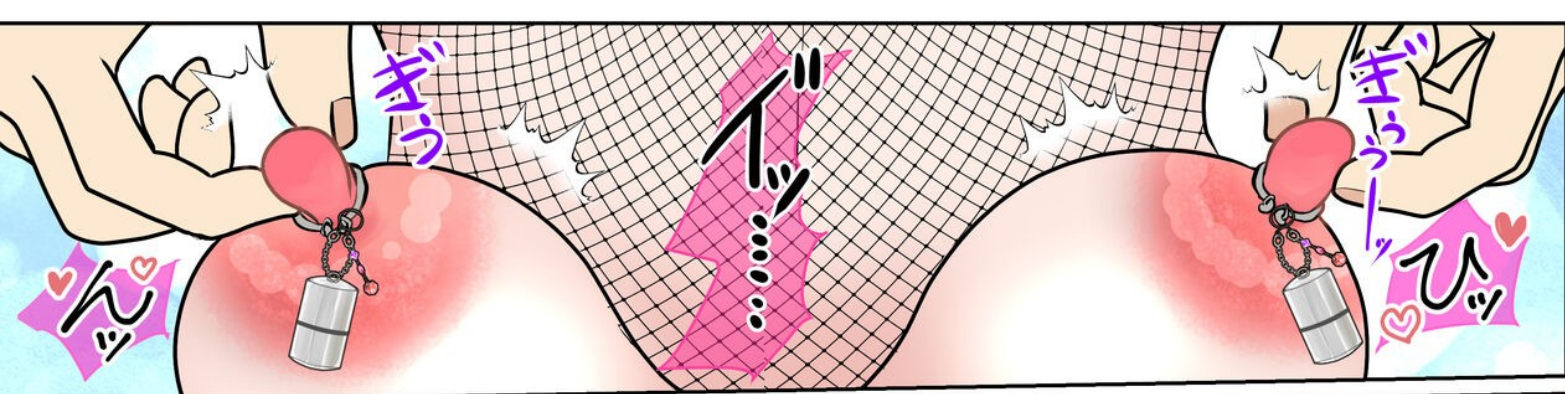
俺は
母さんを
ずっと
好きだった…

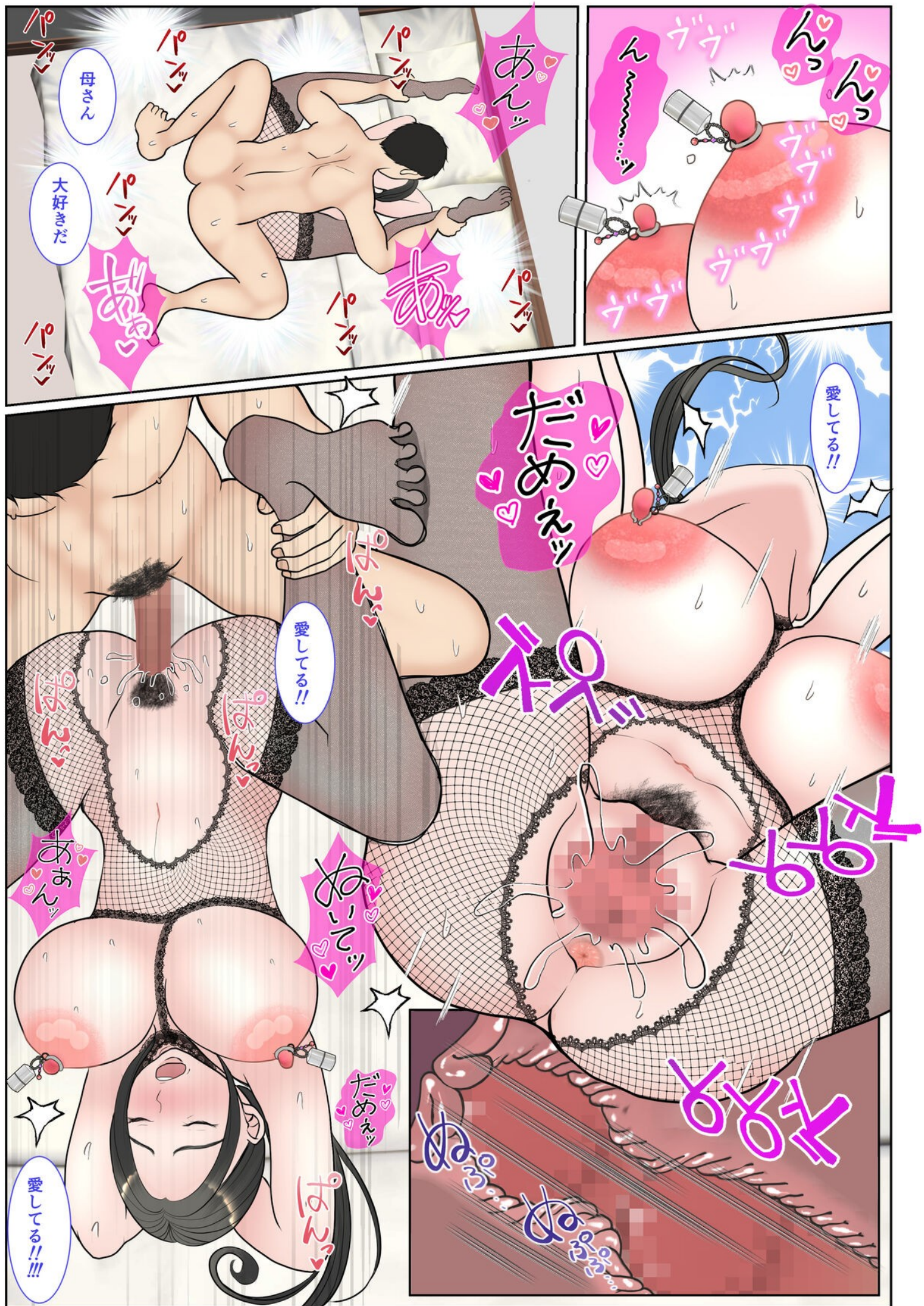
母さんへの想いを
断ち切るために
結婚したんだ…

実家を出れば
楽になるかと
思ったけど…

母さんと
会えない毎日が
苦痛だった…





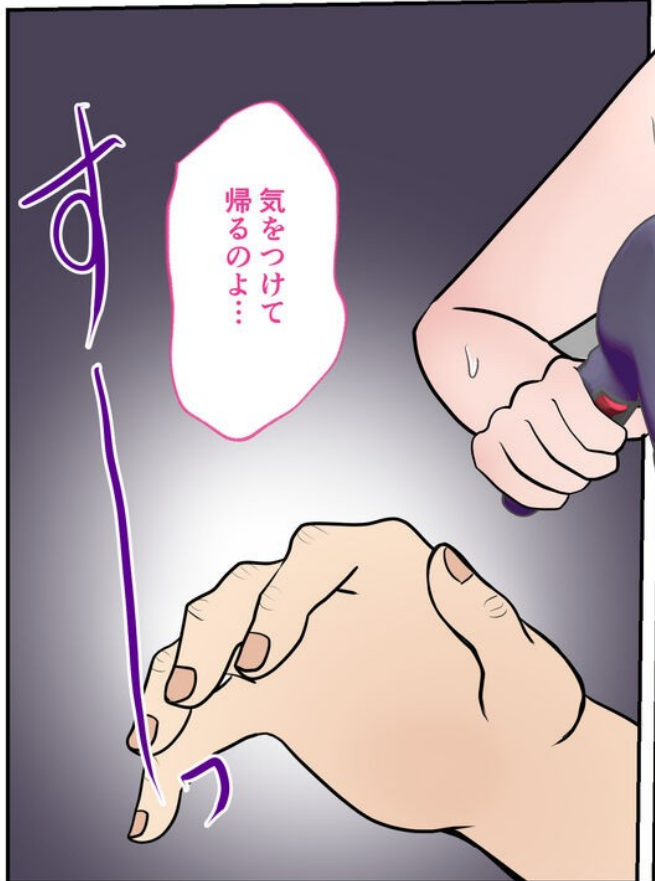


そのまま…

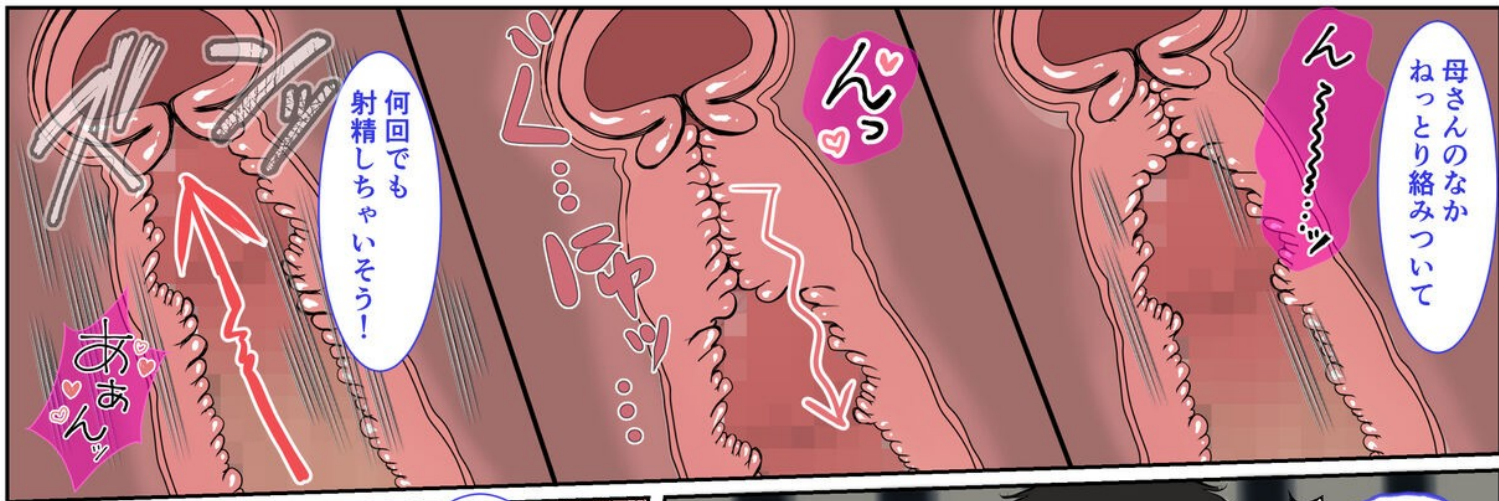
射精^だすよ!!!

私は、
颯太の精子を
一滴残らず

受け止めて
しまったのです







なかに
だして!!!
あつの...
ちやうだい...
♡♡♡

俺も
もう限界だ...
母さんッ
イクよ!!!

私は
2回も
颯太の精液を受け止めて
しまったのです

その日

ああん♡
♡♡♡

イク♡
♡♡♡



それから1ヶ月間
颯太とも会わないように
していたのですが…

正直
こんな関係を持って
しまった以上…

家族…
特にお嫁さんとは
どんな顔をして
会えばいいのか
分かりません…

もちろん、ずっと
会わない訳には行かず、
息子夫婦と私達で
出かけることに
なってしまったのです

こんにちは！

今日いい天気で
よかった〜!!!

あ、母さん
ごめん

アリサ車酔い
しやすいから
前の席変わって
もらってもいい？

ええ、もちろんよ

ということとは
颯太は私の隣に座るとのこと…

すみません
お義父さん
運転ありがとうございます
ございます

えッ
えへへ…

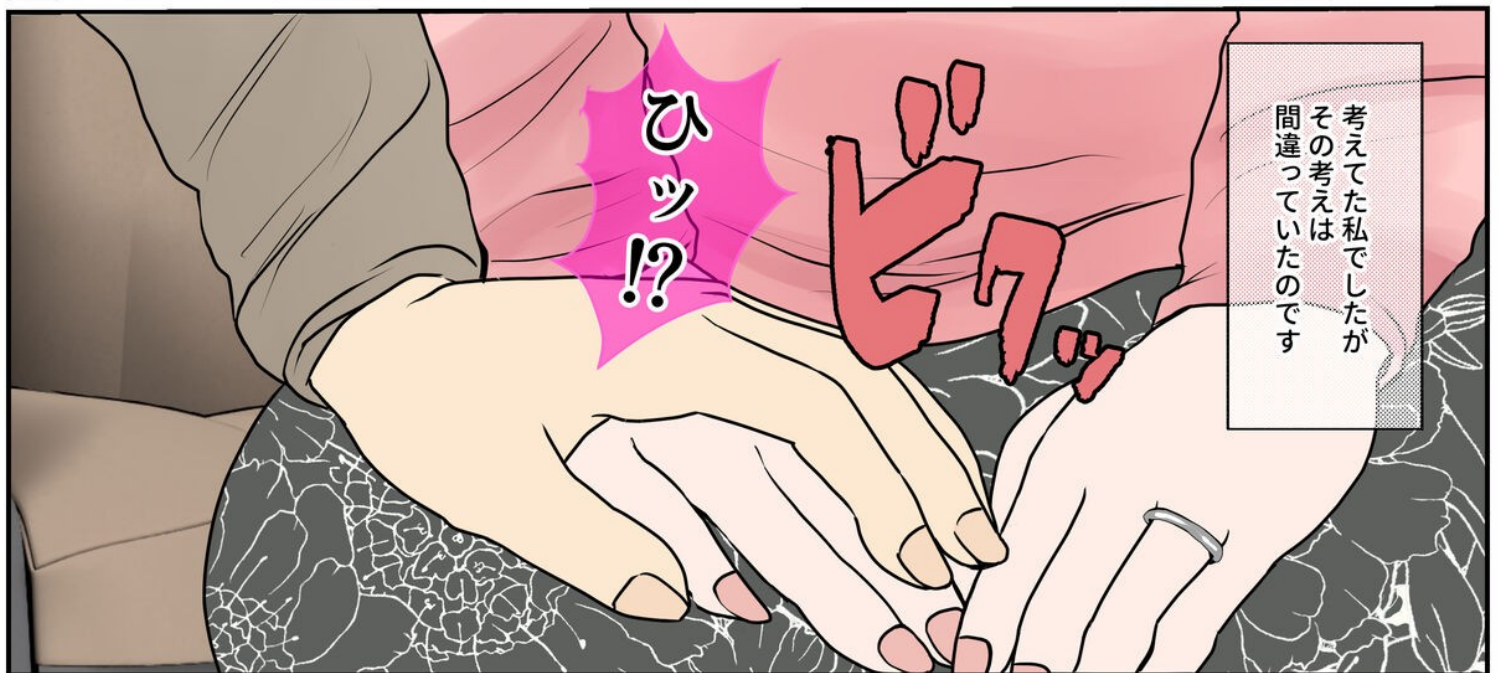
気にしないでね
アリサちゃん…

夫は
美人なお嫁さんが
助手席に乗って
上機嫌でした



颯太と隣り合わせ：でも他の家族もいるので：

何も起こらないだろうと：

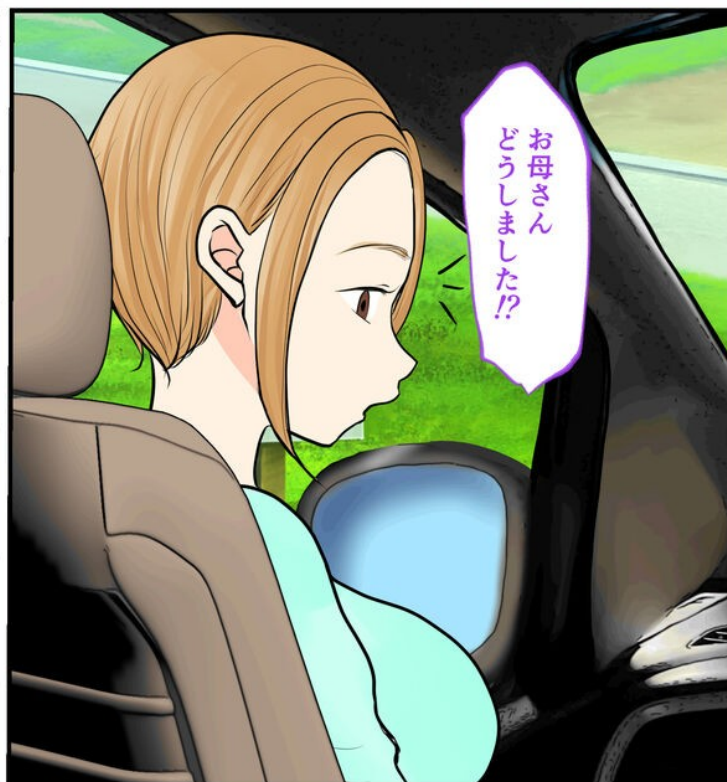


考えてた私でしたがその考えは間違っていたのです



ごめんなさいね虫がいて：

私、虫は大の苦手で：



お母さんどうしました!?



あわ…あわわ…



そして、颯太は
スマホにメッセージを
送ってきたのです



虫嫌ですよね
私も苦手です

颯太は、
いたずらっぽく
私に笑いかけてました

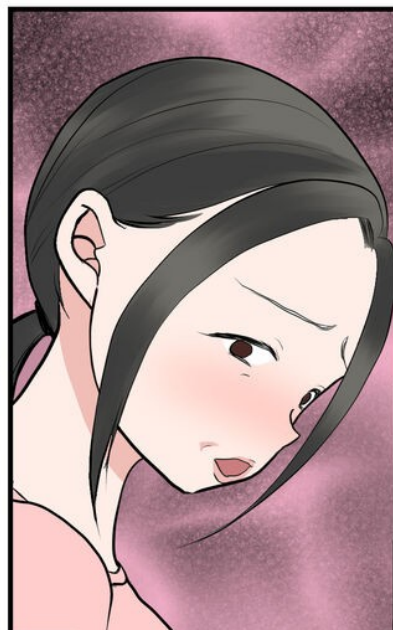


撫で回してきました

颯太は私の
おしりをいやらしく



この状況で
何を考えてるのか…



颯太のそびえ立った
ペニスを
握ってしまいました

びっくりした私は
バランスを崩し

仕方ないので
颯太のペニスを握り

上下に
擦りました

母さん上手いよ

すっげえ
気持ちいい…

いつ
家族にバレても
おかしくない状況でした

母さん
舐めてよ

手コキだけじゃ
イカなそう

私は
颯太のペニスに
舌を這わせました

ふるふるっ…

今日本当に
楽しみにしてたん
ですよ

大型の
ショッピングモールが
こんな近くにできるなんて！

れ…れ
っ…っ…♡

いっぱい
お買い物したかったから
車で行けて
本当に助かりました！

れろっ…

れろれろ

会員になると
さらに
お得に買えるみたい
なんです！

ぽっぽっ

ぽっぽっ

ああ…
どうか
後ろを振り向かないで…と
祈りました

ちゅちゅ…♡
ちゅちゅ…♡

れろれろ…
れろれろ…

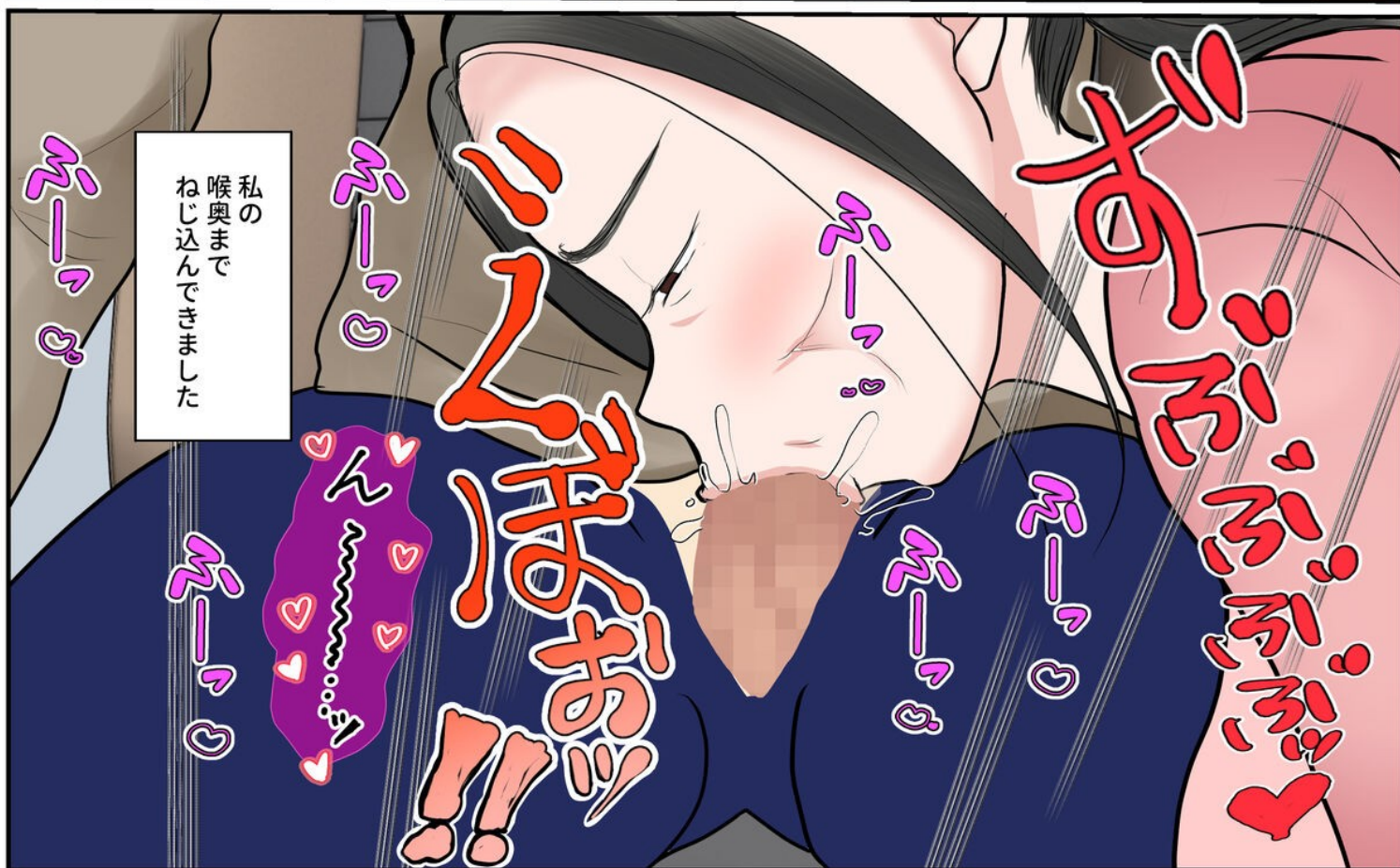
れろれろ…
れろれろ…



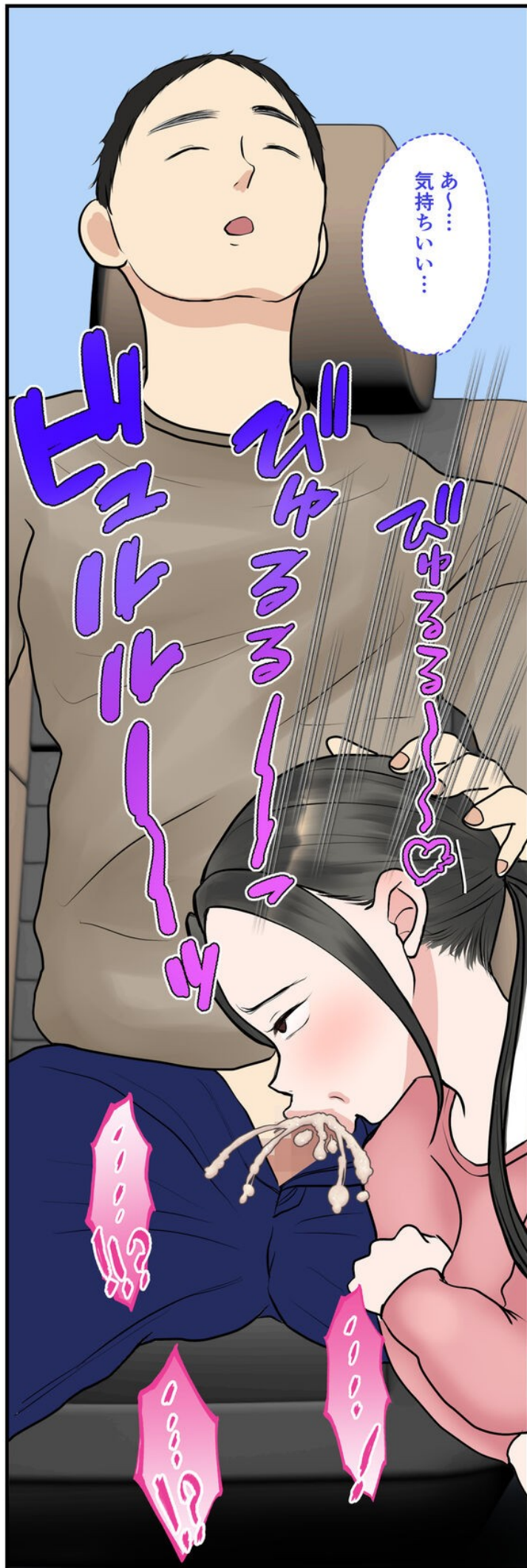
颯太は
私の頭を
押さえて



大きい…
大きすぎるペニスを



私の
喉奥まで
ねじ込んできました





どうしよう、
今起き上がったら
怪まれちゃう…

アリサちゃんが
こっち向いちゃう！

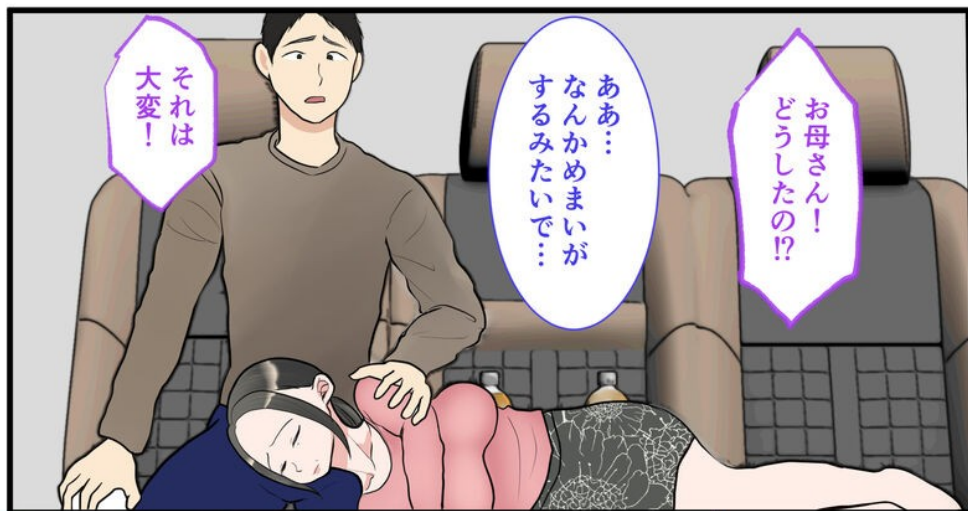
ドキッ

ドキッ



颯太！
お母さん、
もうすぐ着きますよ！

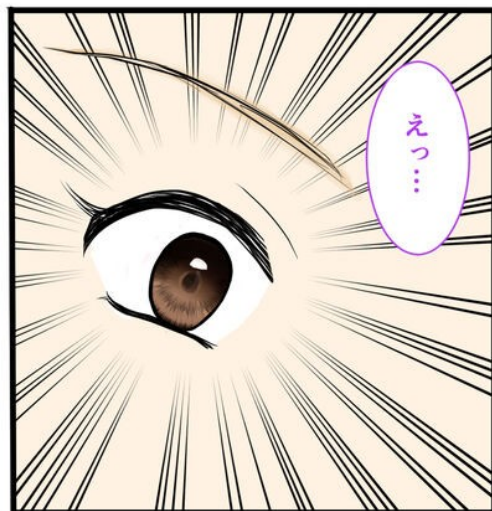
ツッ



それは
大変！

ああ…
なんかめまいが
するみたいで…

お母さん！
どうしたの？！



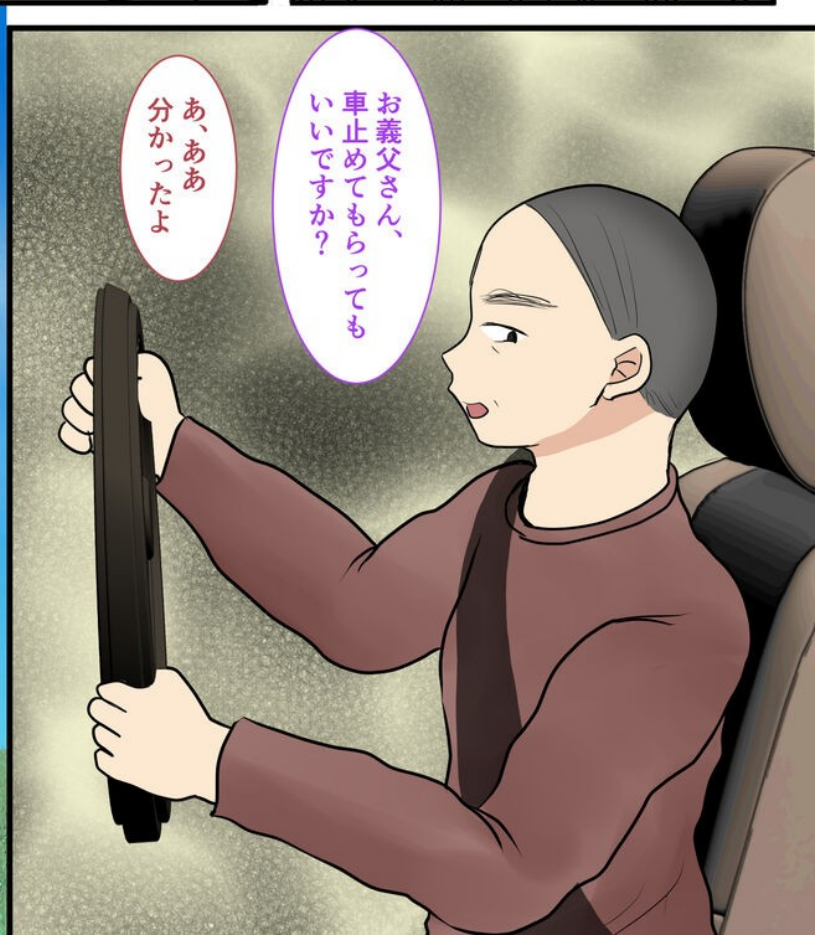
えっ…



あ、
大丈夫だよ
ここで
降ろしてもらって

どうしよう…
病院行こうよ！

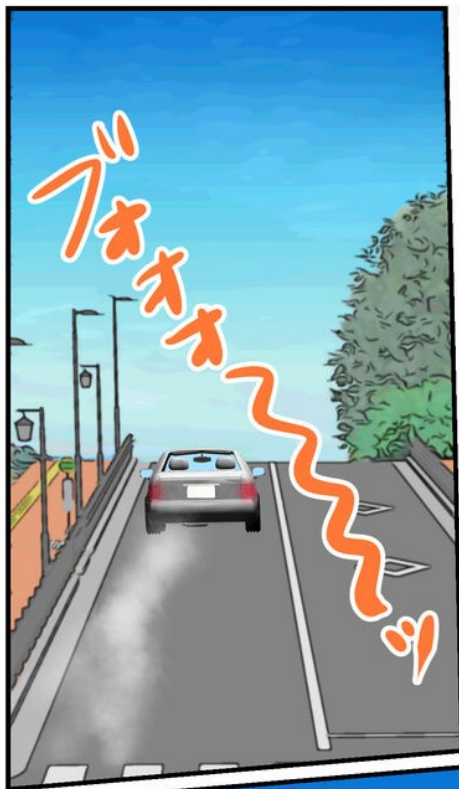
ハッ



お義父さん、
車止めてもらっても
いいですか？

あ、ああ
分かったよ

ハッ



アリサは
買い物してきて
くれないか？

みんな
待っても
病院は迷惑だろうし…

わ、分かった



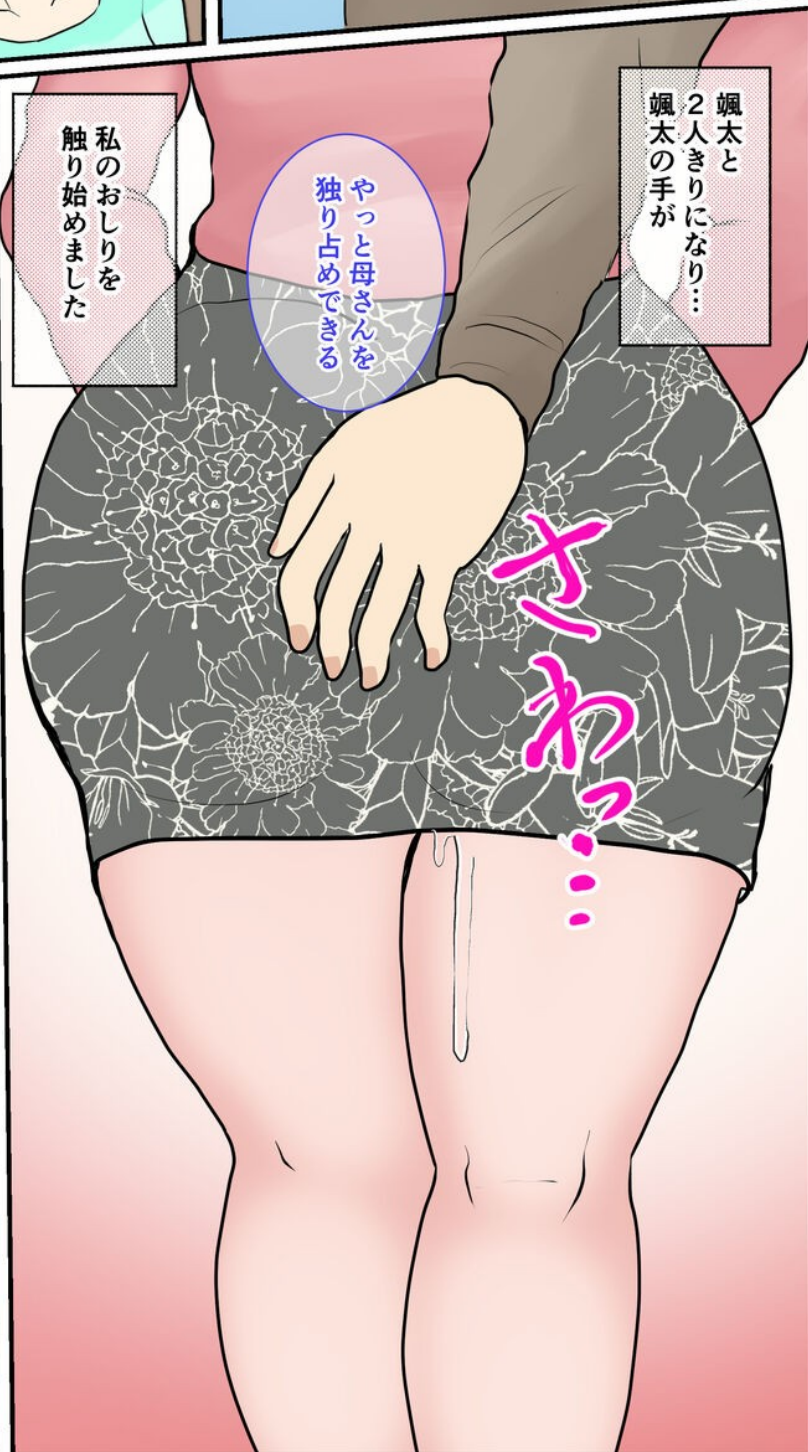
すぐそこに
病院見えるだろ？
母さんのかかりつけ
なんだ

俺
連れてくから



ふふっ
スリル満点の
ドライブだったでしょ？

ダメよ…
こんな明るい
ところで…

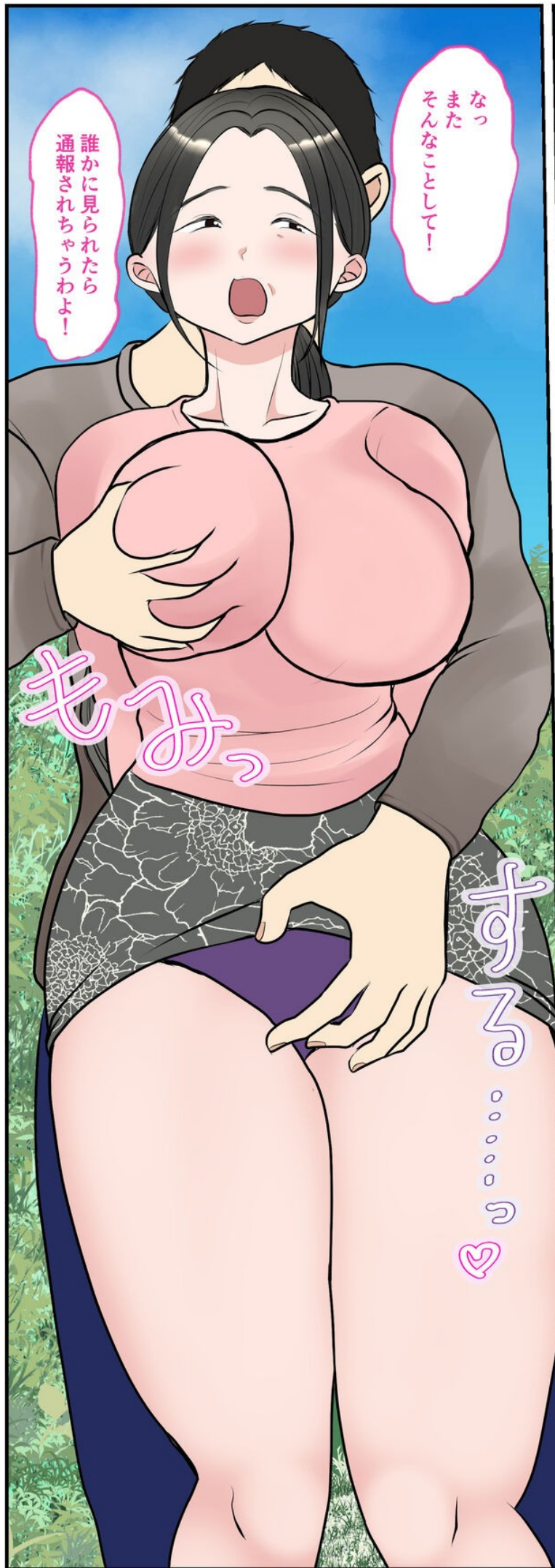


颯太と
2人きりになり…
颯太の手が

やっ
と母さんを
独り占めできる

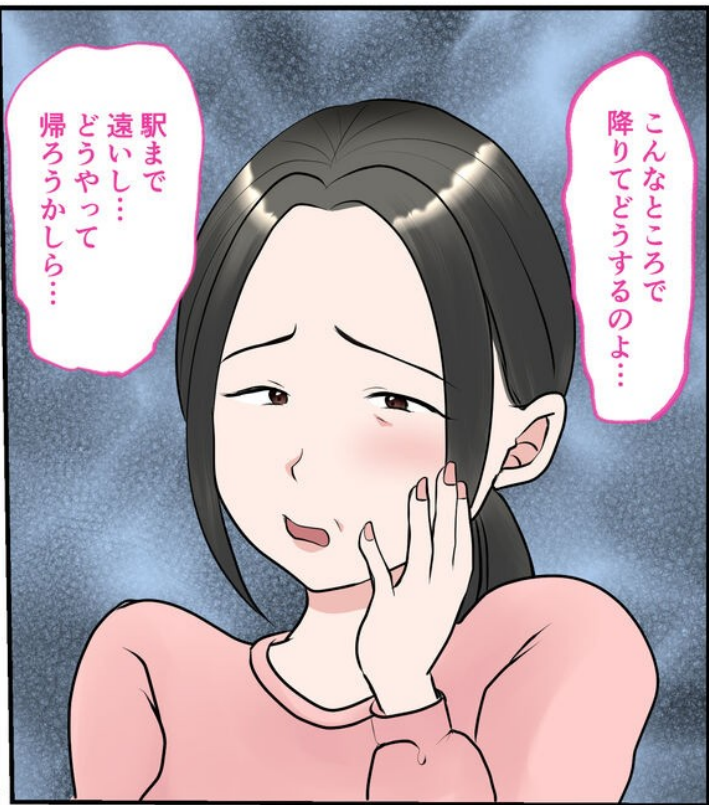
私のおしりを
触り始めました

さわっ…



誰かに見られたら
通報されちゃうわよ！

なっ
また
そんなことして！



こんなところで
降りてどうするのよ...

駅まで
遠いし...
どうやって
帰ろうかしら...



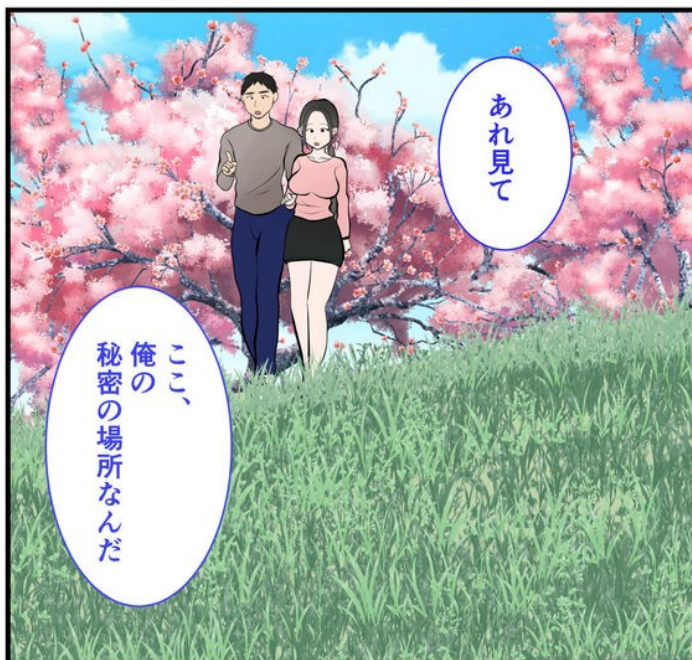
母さん
こっち来て！



ちょっと！
何？何なの！？

いいから
いいから

ぐんぐん
たたた
たたた
たたた





ほらっ
もつと奥まで
突いてあげる

キ
ン!

イクッ

きもち
イイッ

こんな体勢で
セックスするのは初めてで
あまりの快感に
何回果ててしまったか
分かりませんでした

何度も
恥ずかしい汁が
私のおそこから
吹き出し

あ
あん

イクッ

あ
はあ

あ
ん

見られてると
思えば思うほど
感じてしまっていたのです

あ
ん

あ
ん

あ
ん

あ
ん

あ
ん

ごめんねの
キスしよ

この、背徳的な快楽の結末に
どんな運命が待っているのか…
考える余裕ありませんでした
互いの唾液を絡ませながら
必死でお互いの身体を
貪り合いました





唾液と
汗と
体液にまみれて



颯太にしがみつきのながら
快感に身を委ねるほか
ありませんでした

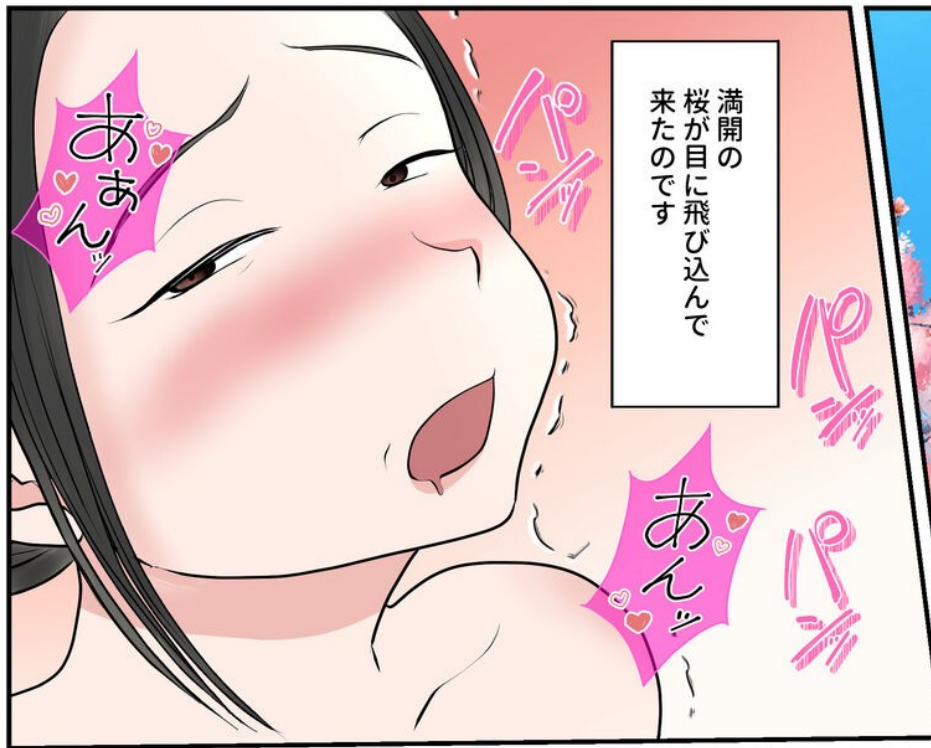
何回も果てて...

きもち
イイッ...

も...もう...
だめ...ッ...

あ...
うん...

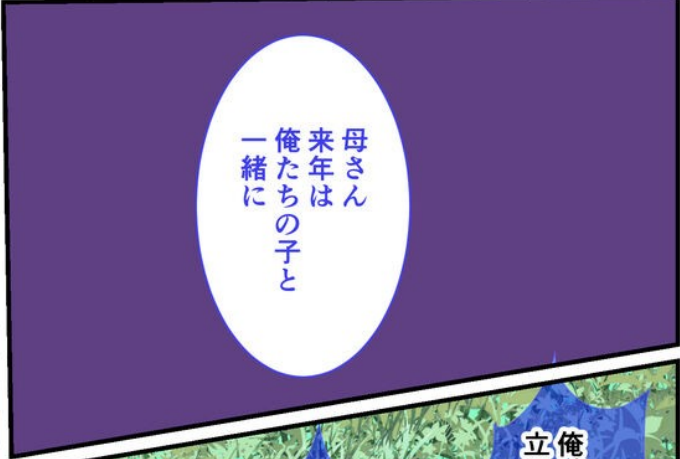
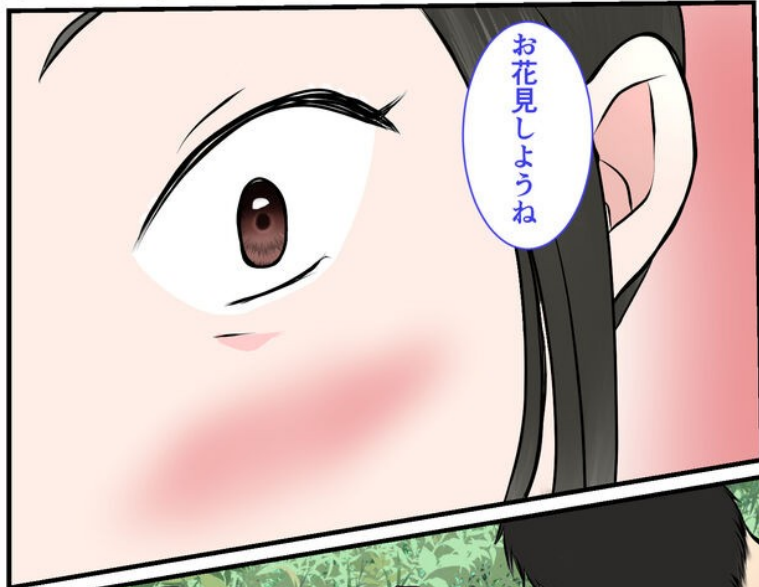
うん...
うん...

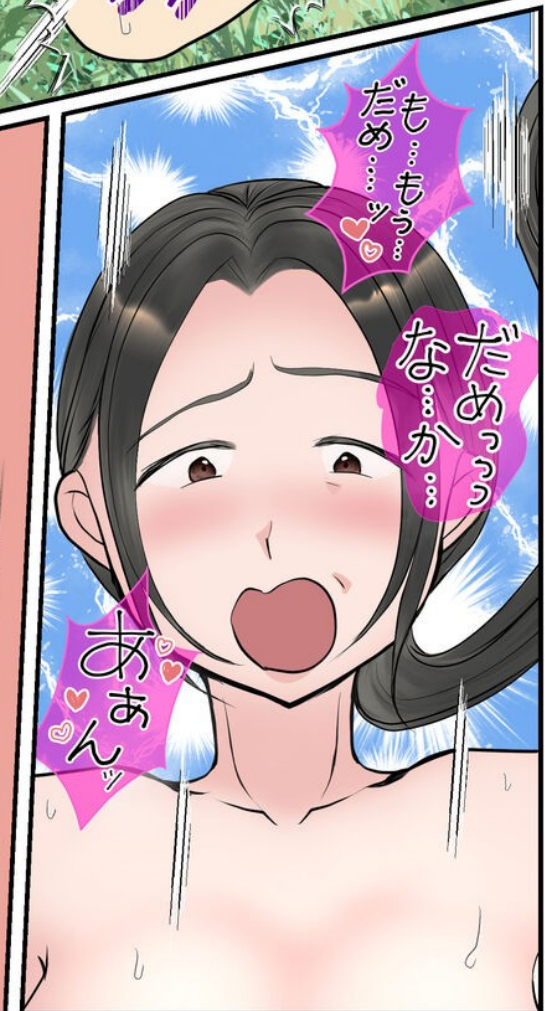
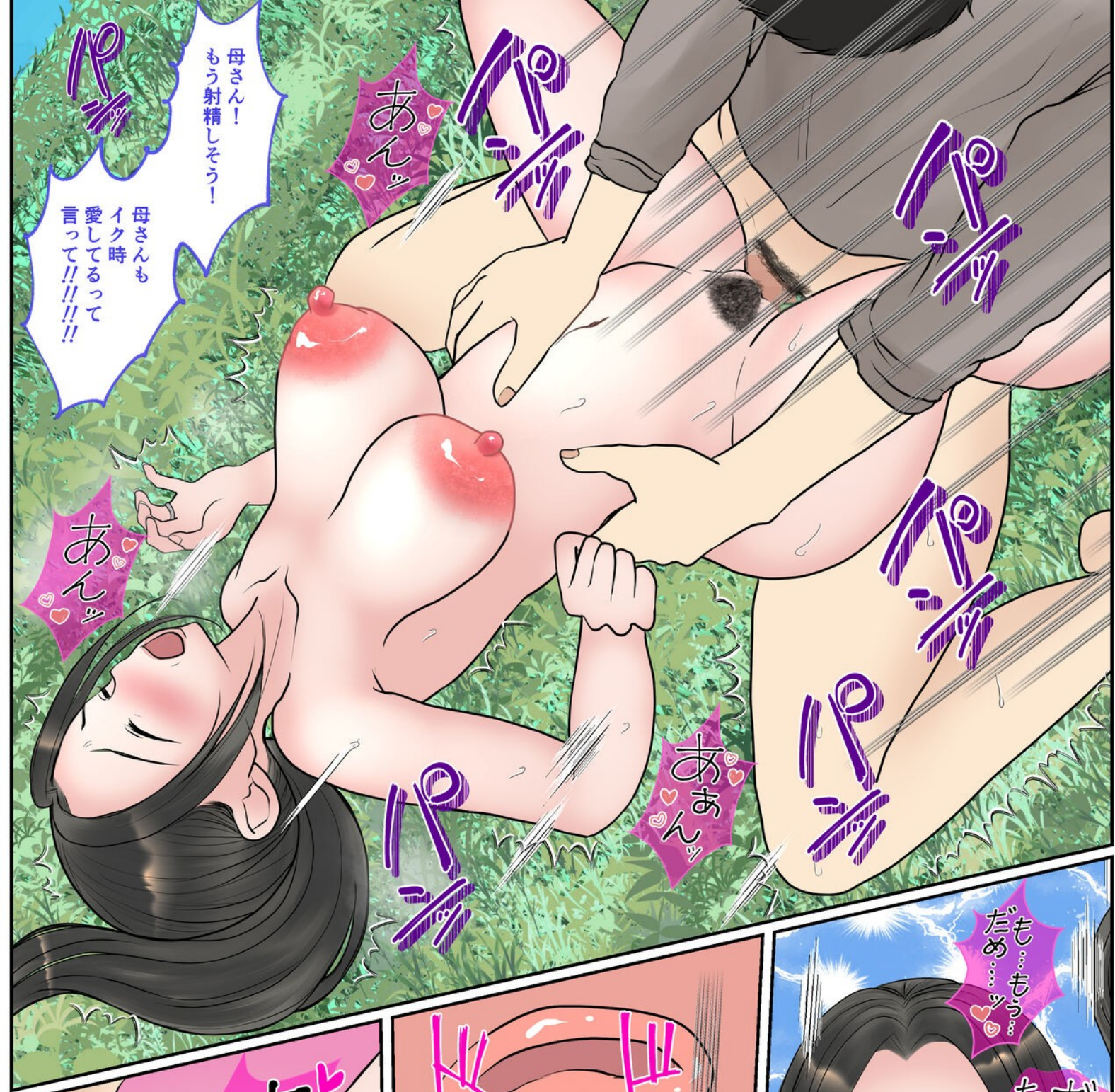


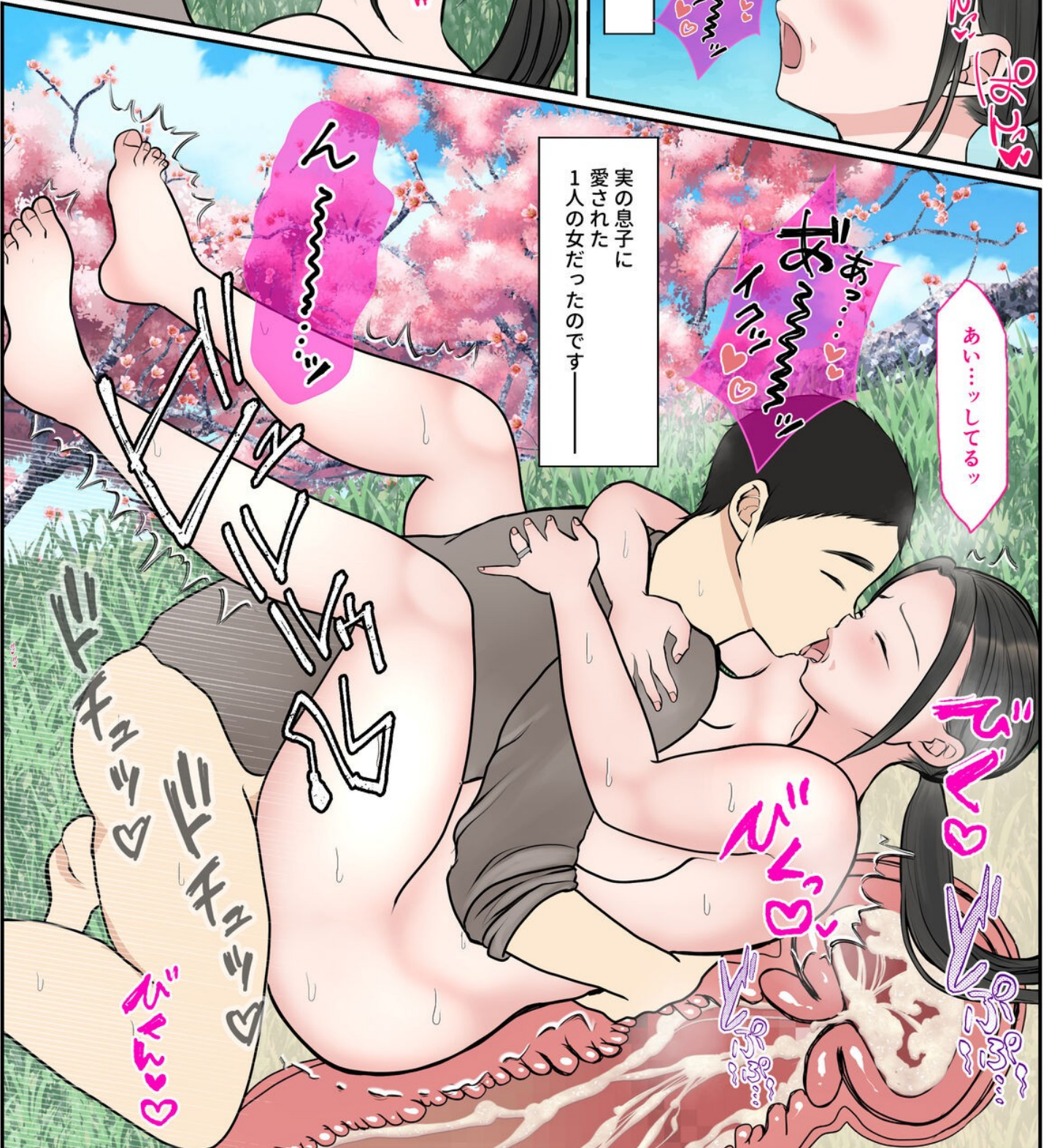
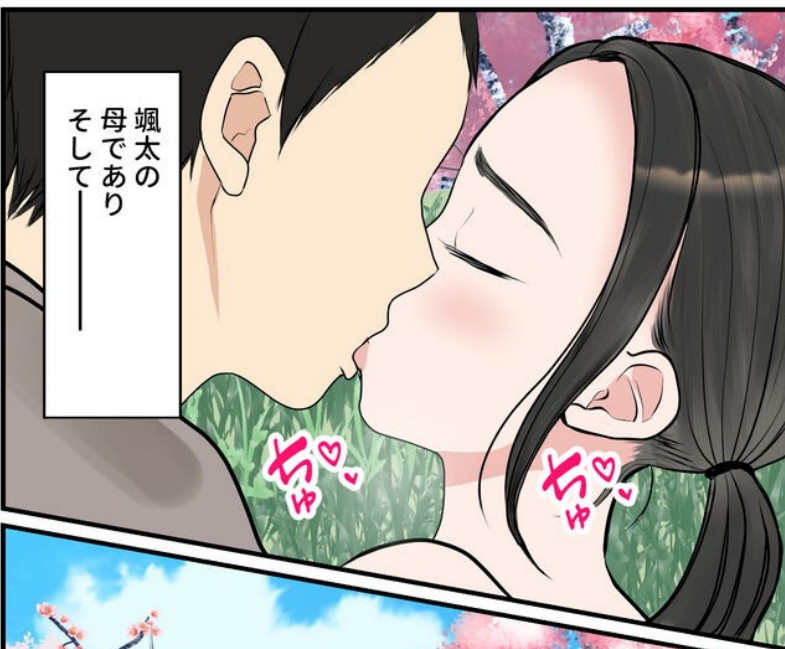
満開の
桜が目飛び込んで
来たのです



ふと
空を見上げると







私は家族を
不幸にするわけには
行かない

この秘密を
墓場まで
持っていけるのか…

颯太とアリサちゃんと
3人で食事をした時、

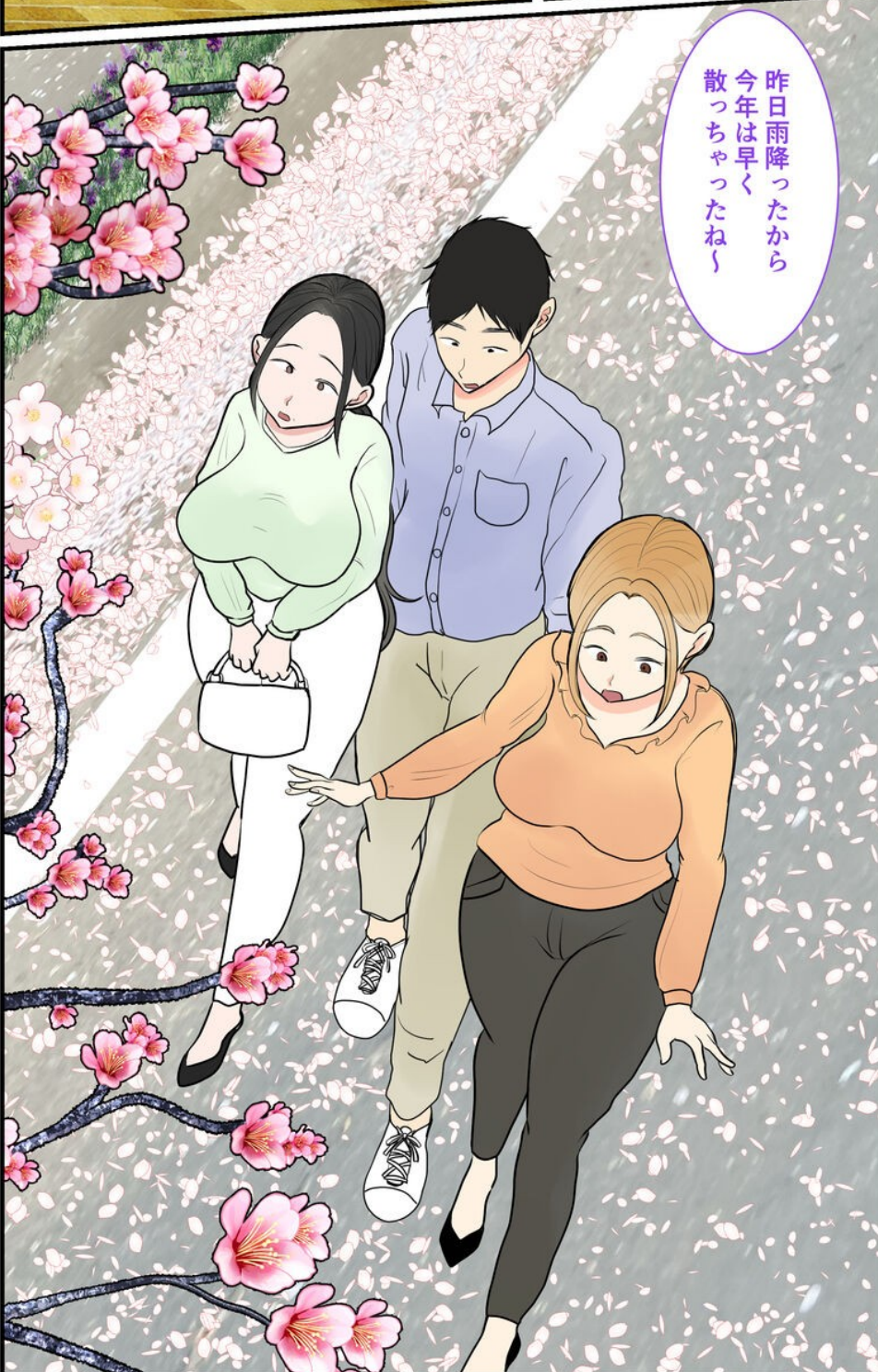
妊娠を報告すると
アリサちゃんは
ものすごく喜んでいました

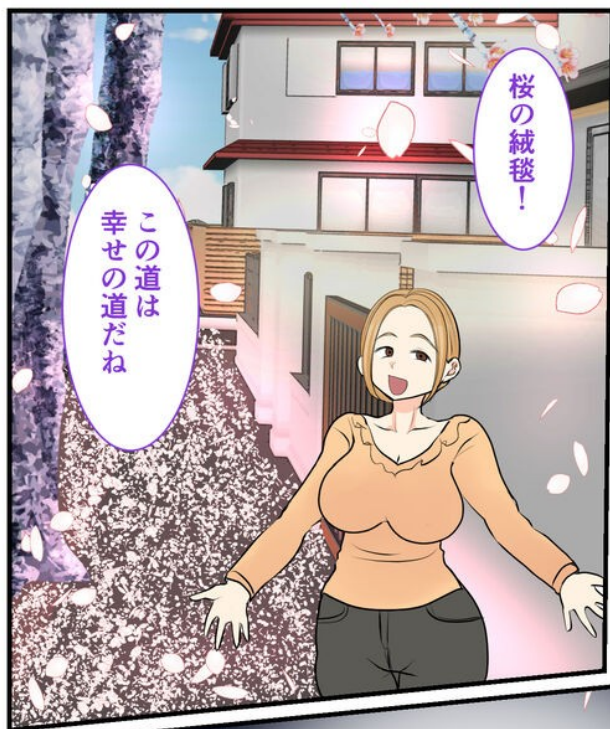


その帰り道…
桜並木の道沿いを
3人で歩いて帰りました

わく
桜めっちゃ
散り始めてる！

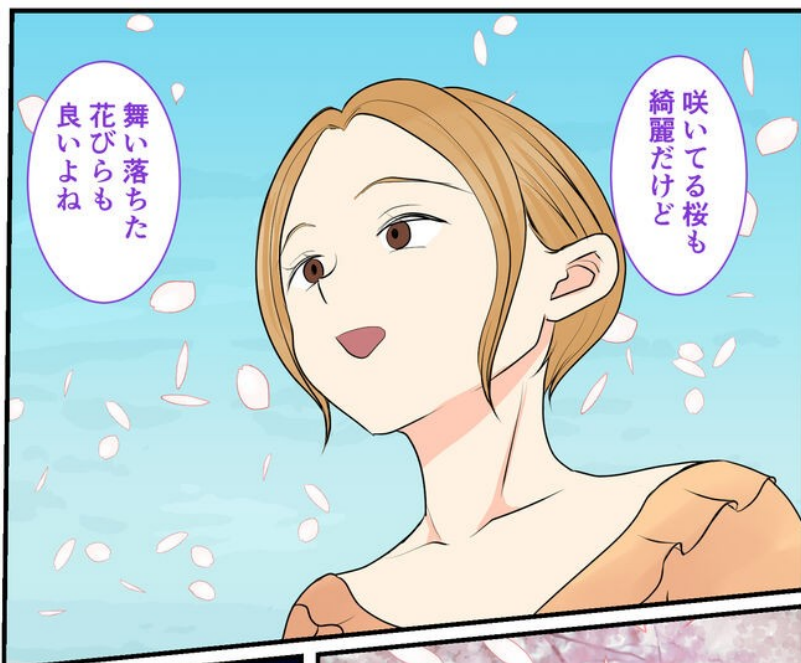
昨日雨降ったから
今年は早く
散っちゃったね





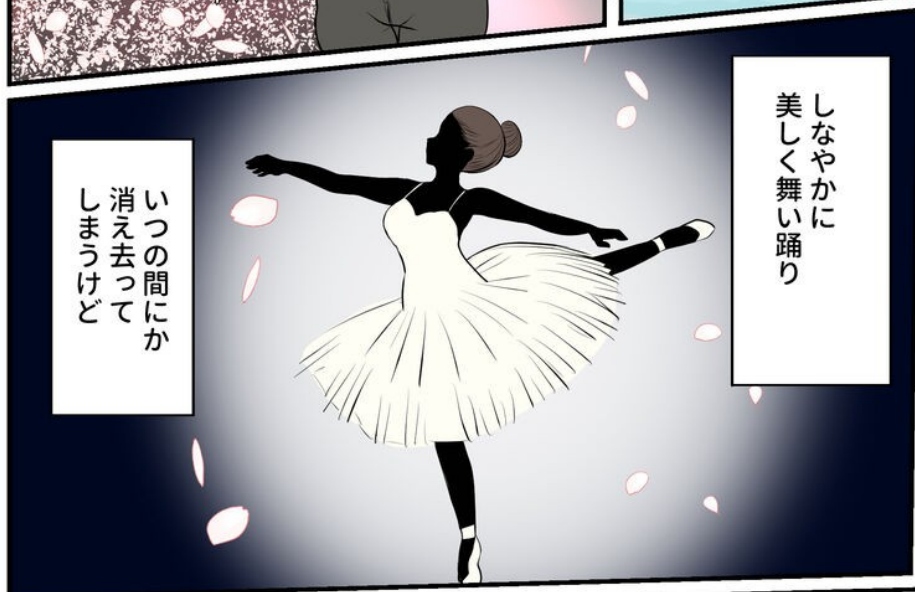
この道は
幸せの道だね

桜の絨毯！



咲いてる桜も
綺麗だけど

舞い落ちた
花びらも
良いよね



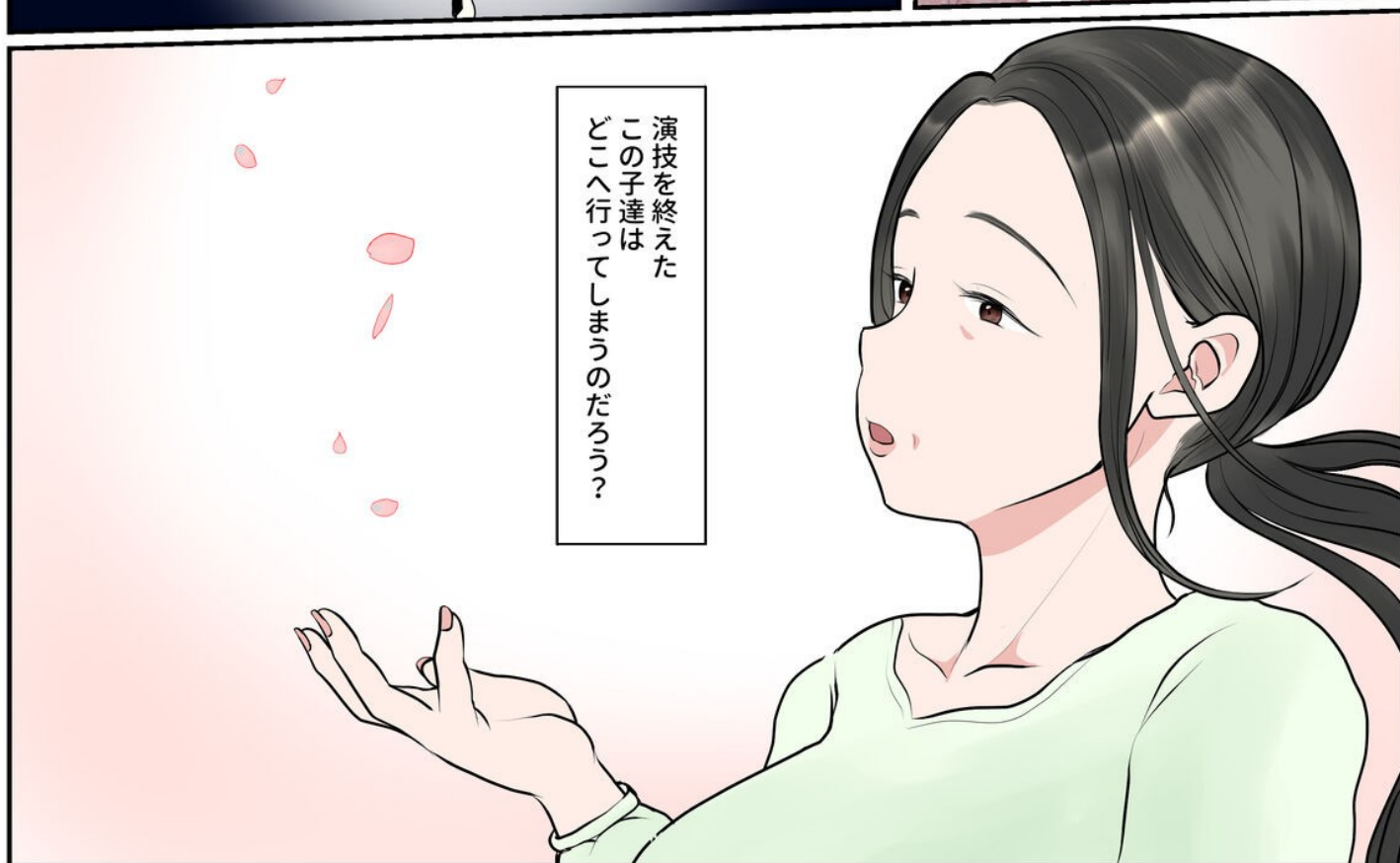
いつの間にか
消え去って
しまうけど

しなやかに
美しく舞い踊り



ああ…

この散りゆく花びらは



演技を終えた
この子達は
どこへ行ってしまふのだろうか？

